



Windows Server Essentials エクスペリエンス ガイド

バージョン 1.02

要約

Windows Server Essentials の機能は、今まで Windows Server の Essentials エディションだけに備わっていましたが、これからはサーバーの役割として Windows Server Essentials エクスペリエンスとして利用できるようになります。この役割は Windows Server の Standard Edition および Datacenter Edition の両方で提供されています。

このガイドでは、Windows Server Essentials エクスペリエンスの解説とインストール等の手順について紹介します。

免責事項

このドキュメントに記載されている情報は、このドキュメントの発行時点におけるマイクロソフトの見解を反映したものです。マイクロソフトは市場の変化に対応する必要があるため、このドキュメントの内容に関する責任をマイクロソフトは問われないものとします。また、記載された情報の正確性を保証できません。このドキュメントは現状有姿のまま提供されます。このドキュメントに記載された内容は情報提供のみを目的としています。明示または黙示に関わらず、これらの情報についてマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。

このドキュメントに記載されている情報 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更することがあります。本ソフトウェアの使用に伴う危険は、すべて使用者が負うものとします。別途記載されていない限り、ここで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などは架空のものです。実在する商品名、団体名、個人名などとは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用をお願いします。マイクロソフトは、本ガイドの全体または一部を複製する権利をお客様に付与します。

マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の知的財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の知的財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものです。実在する商品名、団体名、個人名などとは一切関係ありません。

最終更新日: **2013 年 11 月**

目次

Windows Server Essentials エクスペリエンスの概要	6
ダッシュボードとスタート パッド	7
ダッシュボード	7
Windows Server Essentials エクスペリエンスやコンピューターのバックアップと復元	10
サーバーフォルダー（共有フォルダー）とハードドライブ	13
アドインのインストールと管理	16
Anywhere Access	17
コンピューターの追加	19
クラウド サービスの統合	20
メッセージングと Office 365 とのコラボレーション	20
ホスト型 Exchange Server	21
オンプレミスの Exchange Server	21
その他のクラウド ベースのアプリケーションおよびサービス	21
正常性の監視	21
本書のシステム構成	23
Windows Server Essentials エクスペリエンスの役割のインストール	24
Windows Server Essentials エクスペリエンスの役割のインストール	24
Windows Server Essentials エクスペリエンスの構成	29
ワークグループの場合	29
既存のドメイン環境（ドメインコントローラー）の場合	31
既存のドメイン環境（メンバーサーバー）の場合	32
Windows Server Essentials エクスペリエンス のセットアップ	33
セットアップ	33
その他の Microsoft 製品の更新プログラムの入手（Windows Update 更新）	33
サーバーバックアップのセットアップ	34
Anywhere Access のセットアップ	37
状態レポートの設定	41
クライアント復元サービスのセットアップ	43
サービスとの連携	46
Windows Azure Active Directory との 統合	47
Microsoft Office365 との統合	49
Windows Intune との統合	51

Windows Azure Backup との統合	52
Windows Server Essentials エクスペリエンス の活用	54
Windows Server Essentials エクスペリエンス のユーザー管理	54
アカウントの新規作成（管理者）	54
アカウントの新規作成（標準ユーザー）	56
パスワードの変更	58
アカウントの有効と無効	58
アカウントの削除	59
ダッシュボードへ表示させないアカウントの設定	60
パスワードポリシーの設定	62
ファイルの履歴の設定	62
グループの追加	63
Windows Server Essentials エクスペリエンス のデバイスの管理	65
コネクタ アプリケーションのインストール（Windows の場合）	65
コネクタ アプリケーションのインストール（MacOS X の場合）	68
コンピューターの削除	71
グループポリシーの実装	72
Windows Server Essentials エクスペリエンス の記憶域の管理	74
サーバーフォルダーの作成（Windows Server 2012 R2）	75
サーバーフォルダーの作成（他のサーバー）	76
サーバーフォルダーの移動	77
サーバーフォルダーの共有の停止	78
サーバーフォルダーの削除	79
ハードドライブの追加（データドライブ）	80
ハードドライブのプロパティ	81
記憶域の作成	82
ハードドライブの追加（記憶域の容量を増やす）	83
Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップ	84
コンピューターのバックアップの取得	85
コンピューターのバックアップ項目の追加と削除	85
コンピューターのバックアップの無効	87
コンピューター全体の復元（ベアメタル回復）	88
コンピューターのバックアップとファイルの履歴の設定	91
バックアップ データベースの 修復	91
コンピューターの回復キーの作成	92
ハードドライブの追加（バックアップ ディスク）	94
サーバーバックアップの取得	97

サーバーバックアップの設定の変更	97
サーバーバックアップの無効	100
サーバーの復元（ファイルとフォルダー）	101
サーバー全体の復元（ベアメタル回復）	103
<i>Windows Server Essentials</i> エクスペリエンス のアプリケーション	106
アドインのインストール	106
<i>Windows Server Essentials</i> エクスペリエンス のリモートアクセス（Anywhere Access）	107
リモート Web アクセスのカスタマイズ.....	107
リモート Web アクセス サイト.....	108
BranchCache.....	110
クラウドサービス の統合	110
Microsoft Office 365 の統合	110
ベストプラクティス アナライザー	112
<i>Windows Server Essentials</i> スタートパッド	112
バックアップ	113
サーバーフォルダー	113
リモート Web アクセス.....	114
ダッシュボード	114
Office 365	115
スタートパッドの設定	115
リソース	116
Windows Server Essentials エクスペリエンス 、Windows Server Essentials エクスペリエンスの情報	116

Windows Server Essentials エクスペリエンスの概要

Windows Server Essentials の機能は、今まで Windows Server の Essentials エディションだけに備わっていましたが、これからはサーバーの役割として Windows Server Essentials エクスペリエンスとして利用できるようになります。現在、この役割は Windows Server の Standard Edition および Datacenter Edition の両方で提供されています。そのため、より規模の大きな組織や、ブランチ オフィスのある組織など、このような機能を活用できる導入シナリオが増えています。この役割を Standard Edition または Datacenter Edition で導入すると、サーバーを既存の Active Directory 環境に結合できるので、よりスケーラブルな管理が可能になります。また、Standard Edition および Datacenter Edition は Windows Server クライアント アクセス ライセンス (CAL) モデルを使用しているため、最大 100 人のユーザー、200 デバイスで Windows Server Essentials の機能セットにアクセスできます。さらに、Windows Server Essentials エクスペリエンスの役割が有効なネットワークに 2 つ以上の Standard サーバーまたは Datacenter サーバーを導入することも可能で、現在の環境でクライアント コンピューター のバックアップのスケラビリティを拡大することなどが可能になります。

- **[データ保護]** Windows Server Essentials エクスペリエンスでは、Windows Server 2012 R2 の新機能を活用し、データ保護機能が大幅に強化されています。新しい記憶域スペース (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh831739.aspx>) の機能により、異なるハード ドライブの物理記憶域容量の統合、ハード ドライブの動的な追加、復元性のレベルを指定したデータ ボリュームの作成を行うことができます。Windows Server Essentials エクスペリエンス は、システムの完全なバックアップの他、サーバーだけでなく、ネットワークに接続されたクライアント コンピューターでもベア メタル回復を実行することができ、2TB を超えるボリュームもサポートしています。Windows Azure Backup サービス (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh831419.aspx>) を使用すると、マイクロソフトが管理するクラウド ベースの記憶域サービスに保存された Windows Server のファイルやフォルダーを保護することもできます。Windows Server Essentials エクスペリエンス では、Windows 8 クライアントおよび Windows 8.1 クライアントの新しいファイル履歴機能を一元管理することや構成することが可能なので、ファイルを誤って上書きや削除してしまった場合でも、管理者の支援を必要とせずに回復することができます。
- **[安全なリモートアクセス]** リモート Web アクセスでは、インターネットに接続するだけで、実質的に場所やデバイスに制限されることなく、タッチ入力に対応したブラウザを活用してアプリケーションやデータにアクセスすることができます。Windows Server Essentials エクスペリエンス では、Windows Phone アプリや Windows 8 および Windows 8.1 クライアント向けの新しいアプリが提供されるため、サーバー上のファイルやフォルダーに対する直感的な接続、検索、アクセスを行うことができます。ファイルも、オフライン アクセスに対応して自動的にキャッシュされ、サーバーへの接続が可能になった時に同期されます。Windows Server Essentials エクスペリエンス を使用すると、ウィザードの指示に従って数回クリックするだけで、簡単に仮想プライベート ネットワーク (VPN) を設定できるので、ユーザーの VPN へのアクセス管理が簡素化されます。クライアント コンピューターから VPN 接続を利用すれば、社外からでも Windows Server Essentials エクスペリエンス 環境にリモートで接続することができます。
- **[クラウドサービスの統合]** Windows Server Essentials エクスペリエンス は、オンプレミスで実行するアプリケーションやサービスと、クラウドで実行するアプリケーションやサービスとを自由に選択できるように設計されています。以前の Windows SBS Standard では、Exchange Server がコンポーネント製品として含まれていたため、クラウド ベースのメッセージングやコラボレーション サービスを活用する場合にコストや複雑さが増大していました。Windows Server Essentials エクスペリエンス を使用すれば、オンプレミスで Exchange Server を実行する場

合でも、Exchange のホスティング サービスを利用する場合でも、または Office 365 を利用する場合でも同じ統合管理機能を活用することができます。

- **【正常性の監視】** Windows Server Essentials エクスペリエンス は、自身の状態と、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、および Mac OS X バージョン 10.5 以上を実行しているコンピューターの状態を監視します。これらの状態を監視することにより、コンピューターのバックアップ、サーバー ストレージ、ディスク領域不足などに関する問題が通知されます。監視結果は定期的に、自動的に生成され、社内の管理者や外部のパートナーに電子メールで直接送信されます。
- **【拡張性】** Windows Server Essentials エクスペリエンス は Windows SBS 2011 Essentials の拡張性モデル上に構築されているので、サードパーティのソフトウェア ベンダーが機能を追加することができます。Web サービス API の新しいセットも追加されています。また、既存のソフトウェア開発キット (SDK) や Windows SBS Essentials 向けに作成されたアドインとの互換性も維持されています。

ダッシュボードとスタート パッド

ダッシュボード

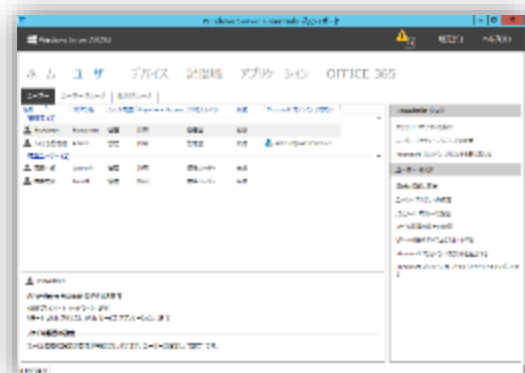
ダッシュボードは、Windows Server Essentials エクスペリエンス のコマンドと制御を行うための中心部分です。スタートパッドはクライアント コンピューター で実行され、ここからすべての操作をすぐに始めることができます。効率的な外観にデザインが一新され、機能が強化されたダッシュボードからは、ネットワーク上でのサーバーの動作、アクセス可能なユーザー、格納および取得可能な情報、それらの情報の整理、保護、およびリモートでの利用など、サーバーの動作を制御するのに必要なすべての管理タスクおよび保守タスクを実行することができます。適切なアクセス許可があれば、ダッシュボード自体にもリモートからアクセスすることができます。

ダッシュボードはタスクごとに整理されていて、さまざまな処理が複数のタブに表示されます。ダッシュボードの各タブには特定の作業項目が含まれていて、優れた管理性を提供しながら変更項目の理解と実行が簡素化されています。

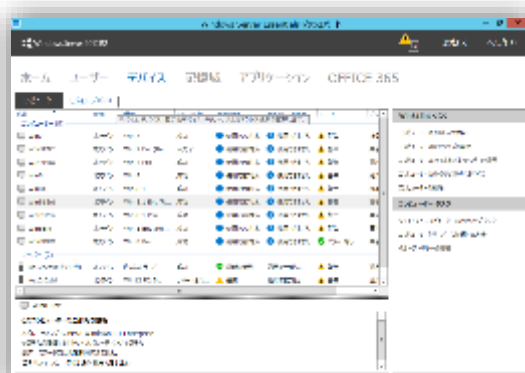
- **【ホーム】** タブはデザインが一新され、すぐに簡単にさまざまな管理タスクを実行できるようになりました。サーバー環境の設定や管理、さまざまな（クラウド ベースでもオンプレミスでも）メッセージング サービスへの接続、サーバーの機能を拡張するアドインの設定、サーバー状態のスナップショットの取得、ヘルプとサポートの検索やアクセスなどを実行するショートカットがあります。



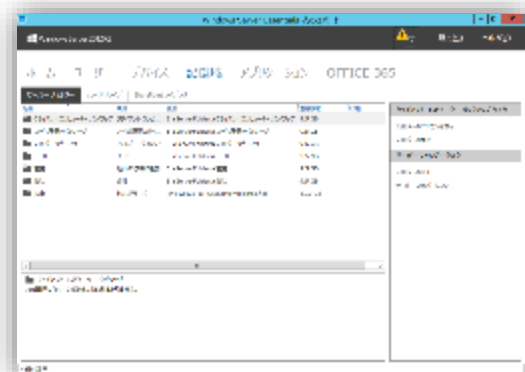
- [ユーザー] タブでは、最大 100 ユーザーのアカウントを追加することができます。アクセス許可のある共有フォルダーを変更することや、各ユーザーに許可するリモート アクセスのレベルを定義することができます。その他にも、パスワード ポリシーを定義するなど、ユーザーのアカウントを管理する作業が可能です。



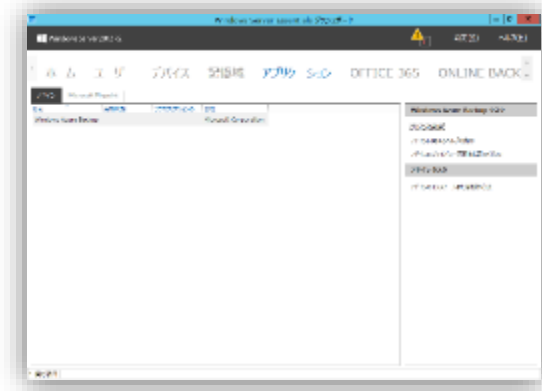
- [デバイス] タブでは、ネットワークに接続されているコンピューターの正常性やバックアップ ステータスを確認することに加えて、サーバーやクライアント コンピューターのバックアップを構成することができます。さらに、Windows 7、Windows 8 および Windows 8.1 クライアント コンピューターにグループ ポリシーを適用して、安全性をさらに高めることもできます。



- [記憶域] タブでは、サーバーの共有フォルダーや物理的なハード ドライブを管理できます。[サーバー フォルダー] サブタブでは、共有フォルダーの作成、変更、削除、および場所の移動を行います。[ハード ドライブ] サブタブでは、サーバーのハード ドライブの表示、追加、削除に加えて、記憶域スペースの管理も行います。これにより、種類の異なるハード ドライブの物理記憶容量の集約、ハード ドライブの動的な追加、回復のレベルを指定したデータ ボリュームの作成を行うことができます。



- [アプリケーション] タブでは、Windows Server Essentials エクスペリエンス の機能を拡張するアドインを確認することや管理することができます。[アドイン] サブタブでは、マイクロソフトおよびその他のサード パーティによって開発されたソフトウェア コンポーネントの表示、管理、および削除を行います。[Microsoft Pinpoint] サブタブは、Microsoft Pinpoint の Web サイトに動的に照会し、評価の高いアプリケーションや、特定のビジネス ニーズに対応するために役立つその他のソリューションを表示することができます。

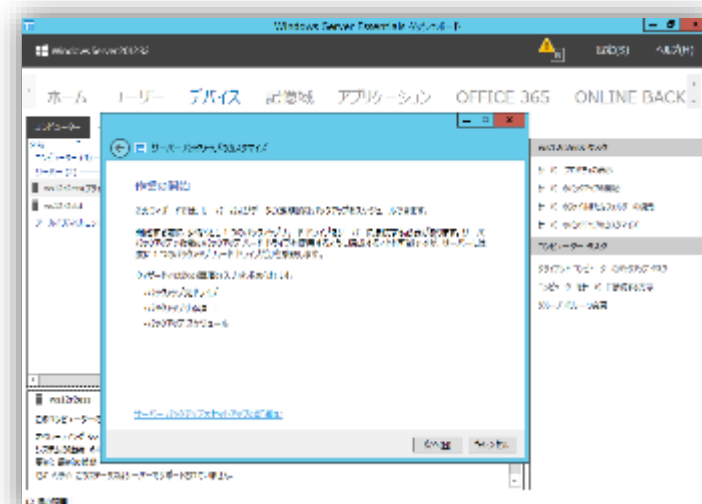


- ダッシュボードには、以下のリンクも表示されます。
 - **[アラート]**: ダッシュボードの正常性の監視タブが開かれ、現在発生しているエラー、警告、または情報の各メッセージを表示します。
 - **[設定]**: サーバーの日付と時刻、Windows Update のプロパティ、リモート Web アクセスのプロパティを含む Anywhere Access の設定を構成するのに使用します。
 - **[ヘルプ]**: 製品情報が表示されます。また、ダッシュボードを表示する機能を選択することができるセーフモードの設定をすることができます。

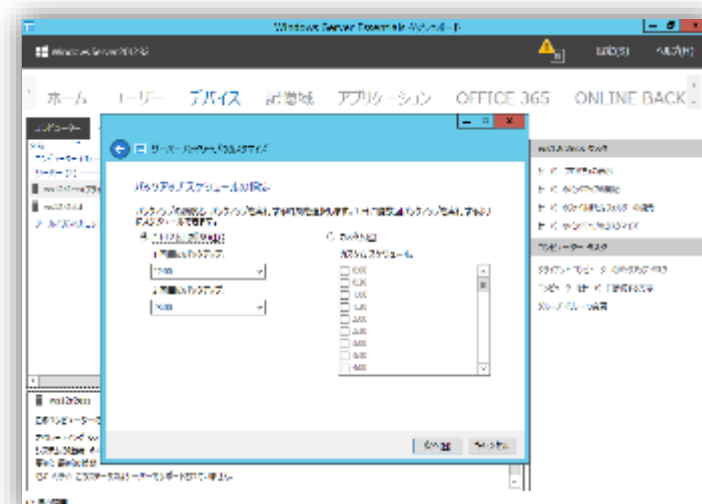
Windows Server Essentials エクスペリエンスやコンピューターのバックアップと復元

Windows Server Essentials エクスペリエンス における バックアップ

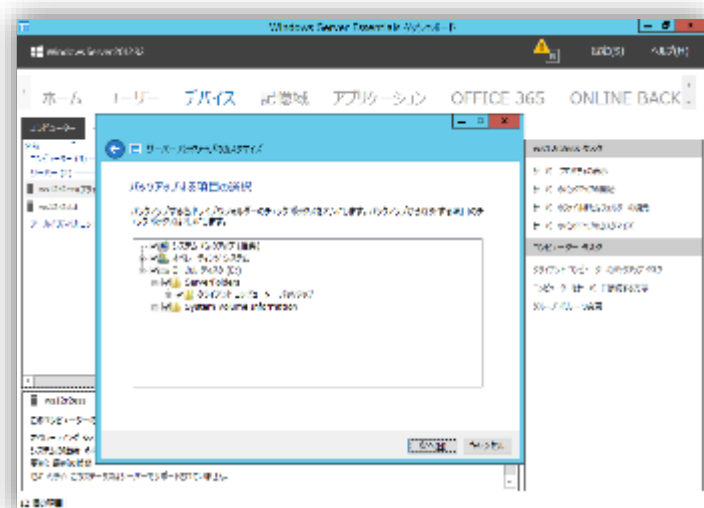
Windows Server Essentials エクスペリエンス では、バックアップの構成ウィザードを使用して、Windows Server Essentials エクスペリエンスおよびそのサーバーフォルダーを外部ドライブにバックアップします。火災や盗難などの不測の事態に備えて、主要なコンピューターのデータを別の場所に保管しておくことができます。意図しないデータの消失が発生した場合は、バックアップからファイルを簡単に復元することができます。



バックアップの構成ウィザードの実行時には、バックアップのスケジュールの設定など、個々のニーズに合致するようにバックアップをカスタマイズするためのいくつかのオプションが利用できます。

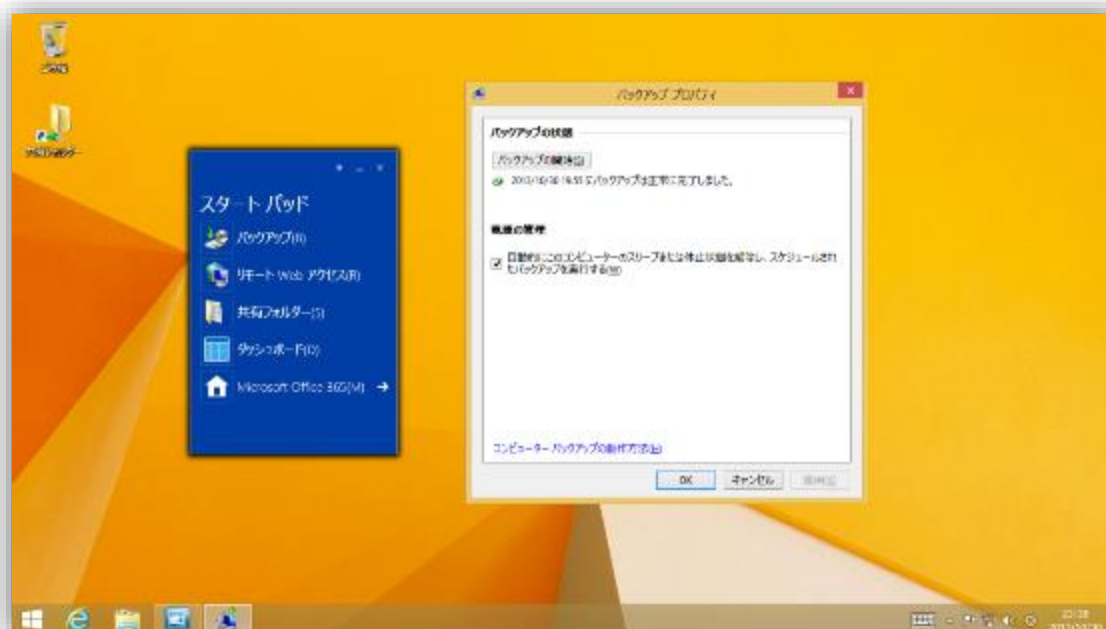


システム バックアップを実行すると、ハード ドライブに障害が発生した場合に "ペアメタル" 復元が可能になります。また、バックアップに含めるサーバーフォルダーを選択することもできます。

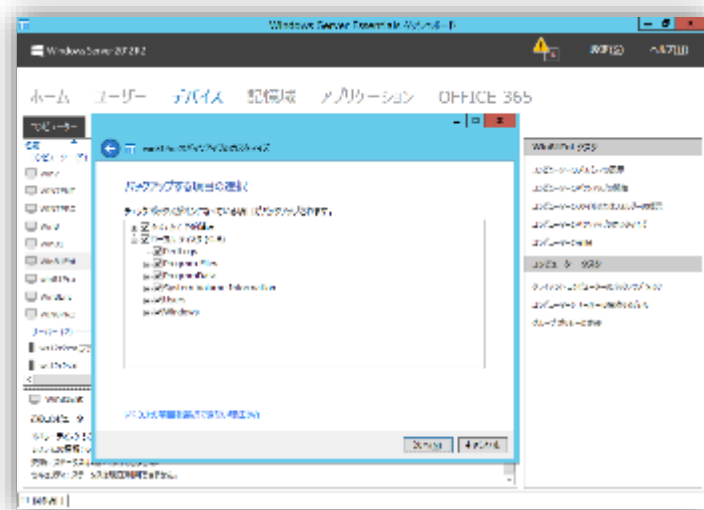


Windows Server Essentials エクスペリエンス におけるコンピューター バックアップ

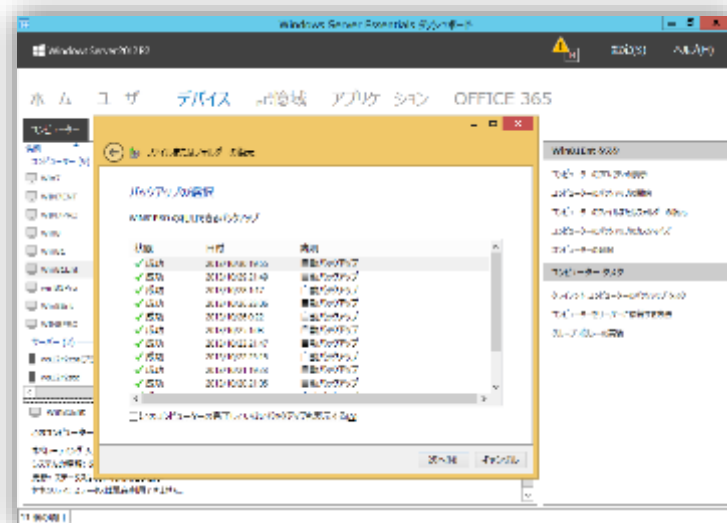
Windows Server Essentials エクスペリエンス のコネクト ソフトウェアをコンピューターにインストールすると、コンピューターのバックアップが自動的に構成されます。これにより Windows Server Essentials エクスペリエンスに接続しているすべてのコンピューターでバックアップが日単位で実行されます。



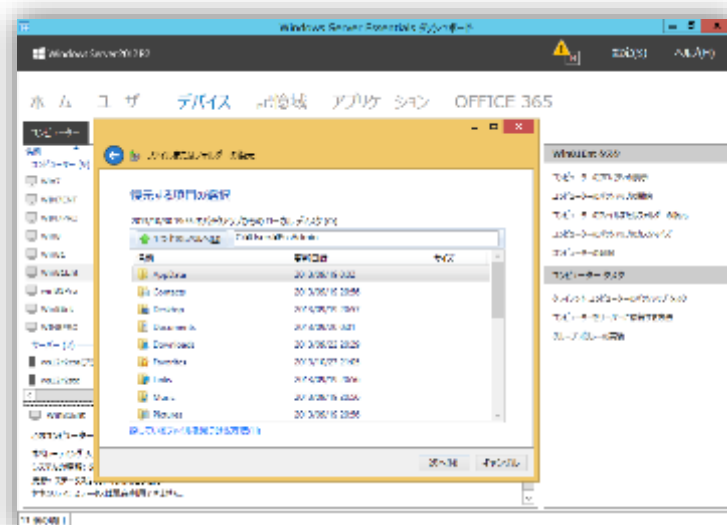
日々の自動バックアップに加えて、コンピューターのスタート パッドを使用して手動でバックアップを開始できます。また、ダッシュボードを使用して各コンピューターのバックアップをカスタマイズすることもできます。



コンピューターのデータを復元するには、コンピューターのスタート パッドからダッシュボードを起動し、[デバイス] タブから復元ウィザードを開始します。利用可能なすべてのバックアップの一覧から、対象のコンピューターに復元するデータを選択します。

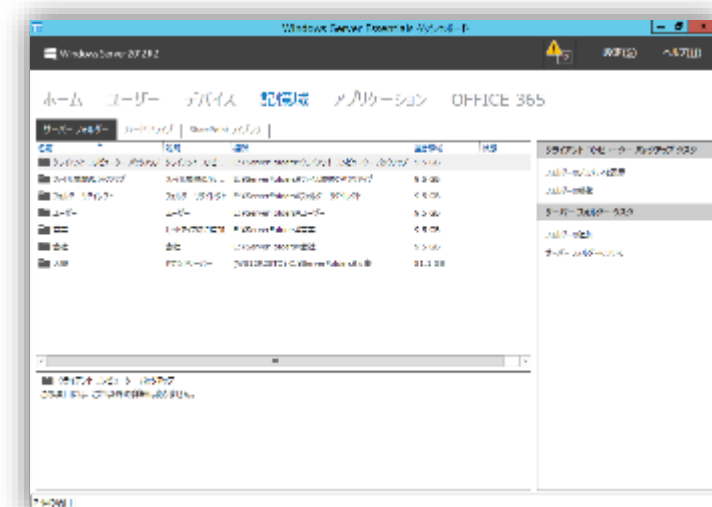


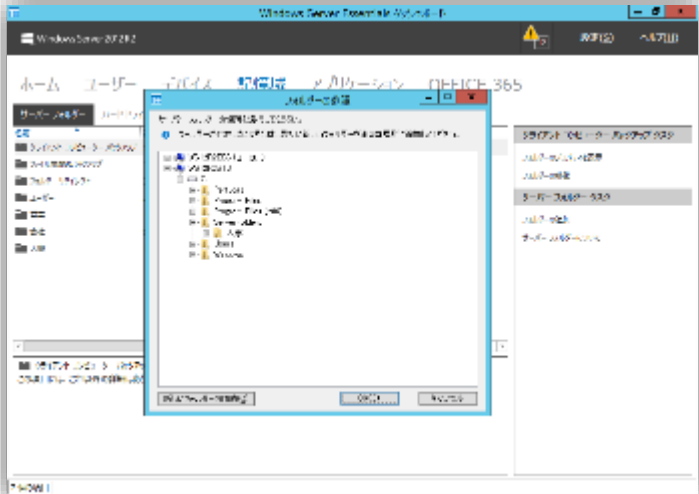
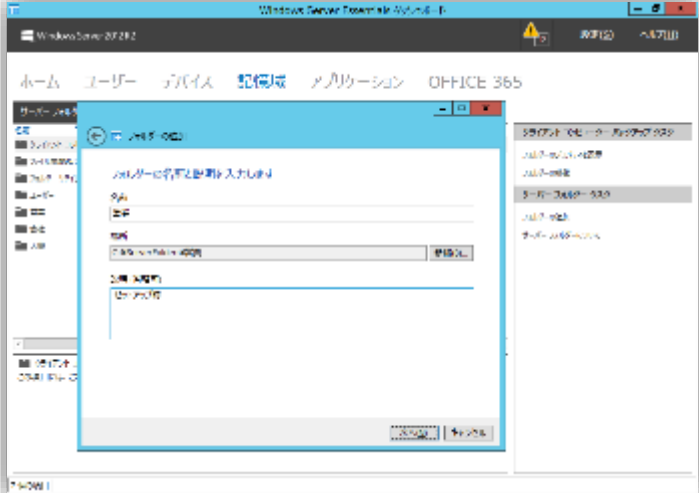
バックアップセットを選択したら、ディレクトリ ツリーを参照して、復元するファイルおよびフォルダーを選択します。元の場所への復元、または別の場所への復元など、オプションが提供されます。



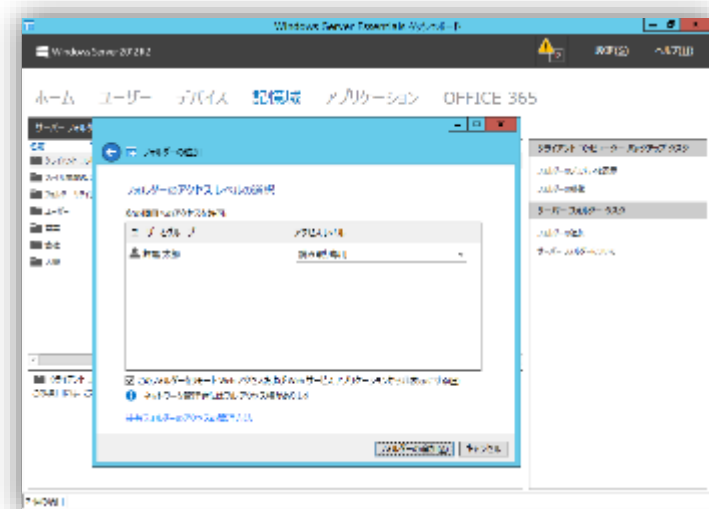
サーバーフォルダー（共有フォルダー）とハードドライブ

Windows Server Essentials エクスペリエンス では、会社、ユーザー、フォルダーリダイレクト、ファイル履歴のバックアップ、コンピューターバックアップ というサーバーフォルダーがあらかじめ構成されています。ダッシュボードから、これらのフォルダーに対するユーザーのアクセス許可を指定したり、新しいサーバーフォルダーを作成したりすることができます。新しいユーザーを追加すると、ユーザーフォルダーの下にサブディレクトリが自動的に作成されます。

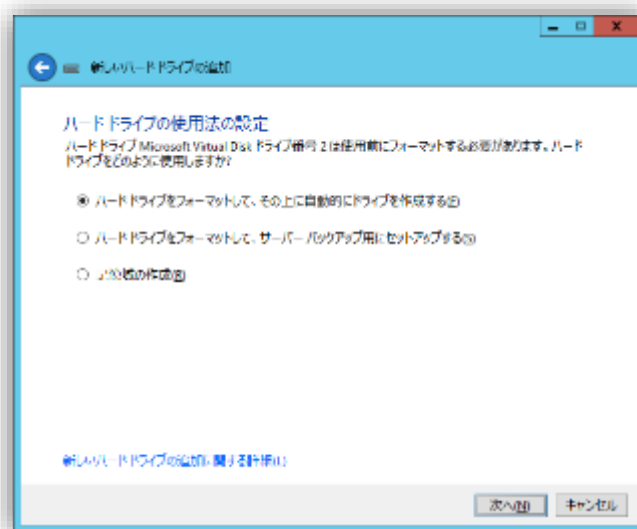




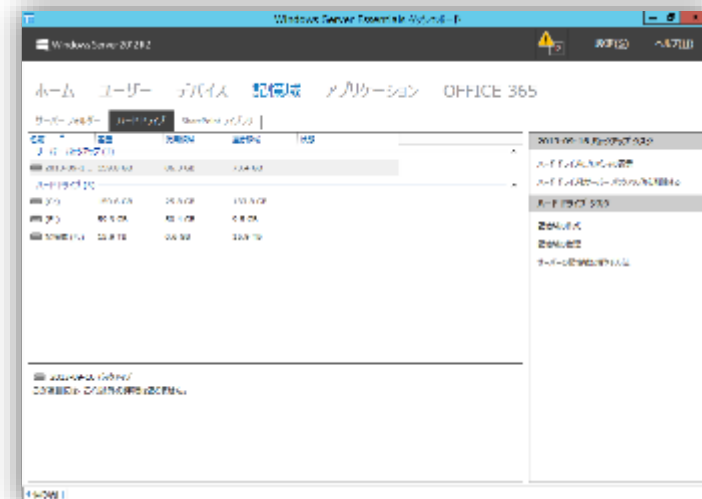
また、サーバーフォルダーに対してユーザーごとにアクセス許可を割り当てることができます。フォルダー内のデータに関して、アクセス不可、読み取り専用アクセス、読み取りと書き込みが可能なフル アクセスを設定できます。サーバーフォルダーをリモート Web アクセスから非表示とする設定もできます。



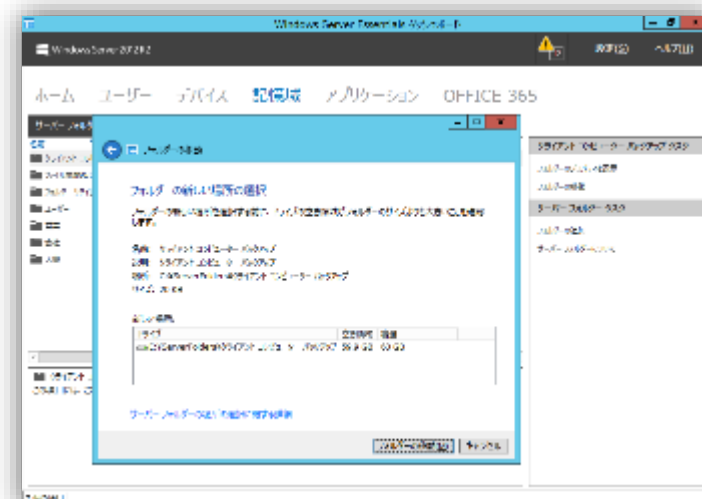
Windows Server Essentials エクスペリエンス はストレージ容量を簡単に増やすことができます。内部ハード ドライブ、外部ハード ドライブ (USB 2.0、FireWire、eSATA などを利用) のいずれも使用できます。新しいハードドライブを追加すると、データ記録のためのデータドライブ用、バックアップ用、記憶域スペース用の 3 つの用途に設定することができます。



ダッシュボードの [ハードドライブ] タブには、Windows Server Essentials エクスペリエンスのバックアップを格納するドライブや、サーバーフォルダーで使用するドライブなど、Windows Server Essentials エクスペリエンスで利用可能なすべてのドライブが表示されます。

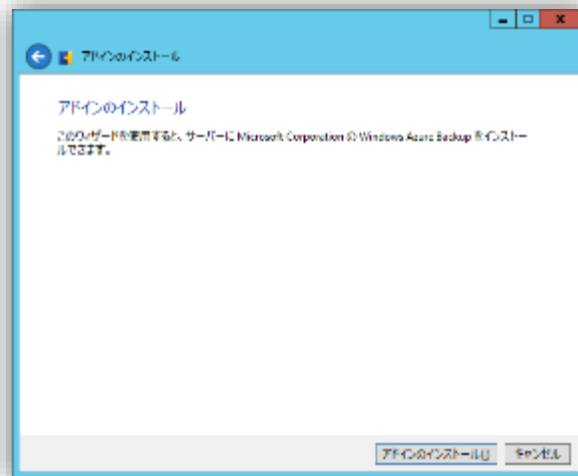


Windows Server Essentials エクスペリエンスに新しいハード ドライブを追加し、データドライブとしてセットアップした後、フォルダーの移動ウィザードを使用してデータをサーバーフォルダーに移動することができます。これにより、増えた容量を迅速かつ容易に利用することができます。

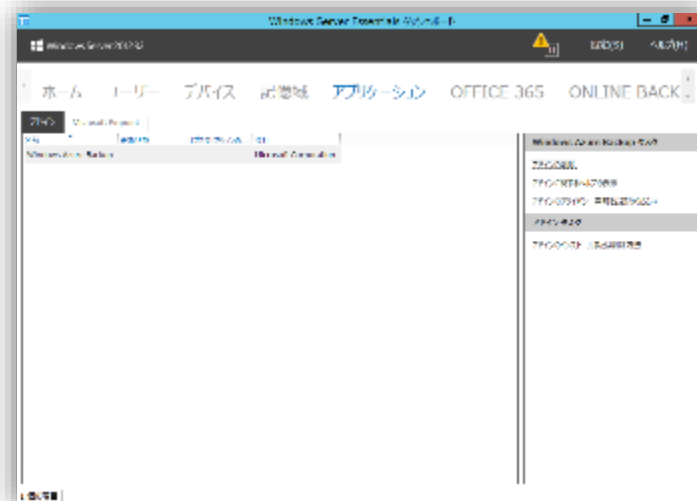


アドインのインストールと管理

アドインとは、Microsoft や他のサード パーティーによって開発された、Windows Server Essentials エクスペリエンス の機能を拡張するためのソフトウェア コンポーネントです。アドインはサーバー アドイン パッケージ ファイルとして提供されます。そのパッケージを実行することによってインストール ウィザードが開始され、簡単にインストールできます。



アドインはダッシュボードを使用して管理します。ダッシュボードで参照、変更、削除を行うことができます。また、各アドインが提供する機能に応じて異なるオプションが用意されます。



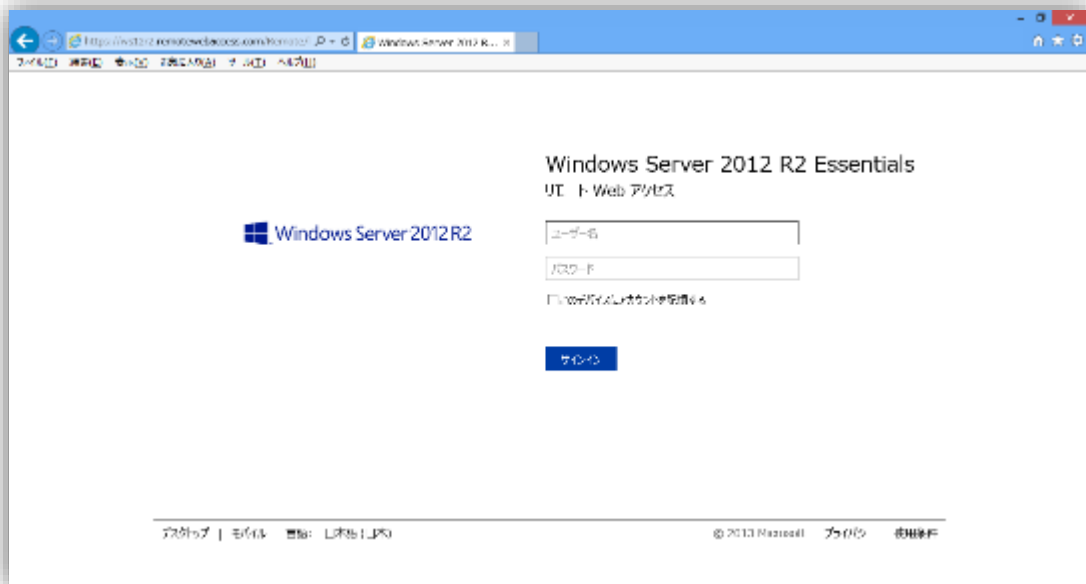
Anywhere Access

Windows Server Essentials エクスペリエンスは、他のオフィスまたは、遠隔地からインターネットが利用できる環境さえあれば、VPN 接続やリモート Web アクセスを使用してサーバーフォルダーへのアクセス、業務アプリケーションを実行できる環境を提供します。

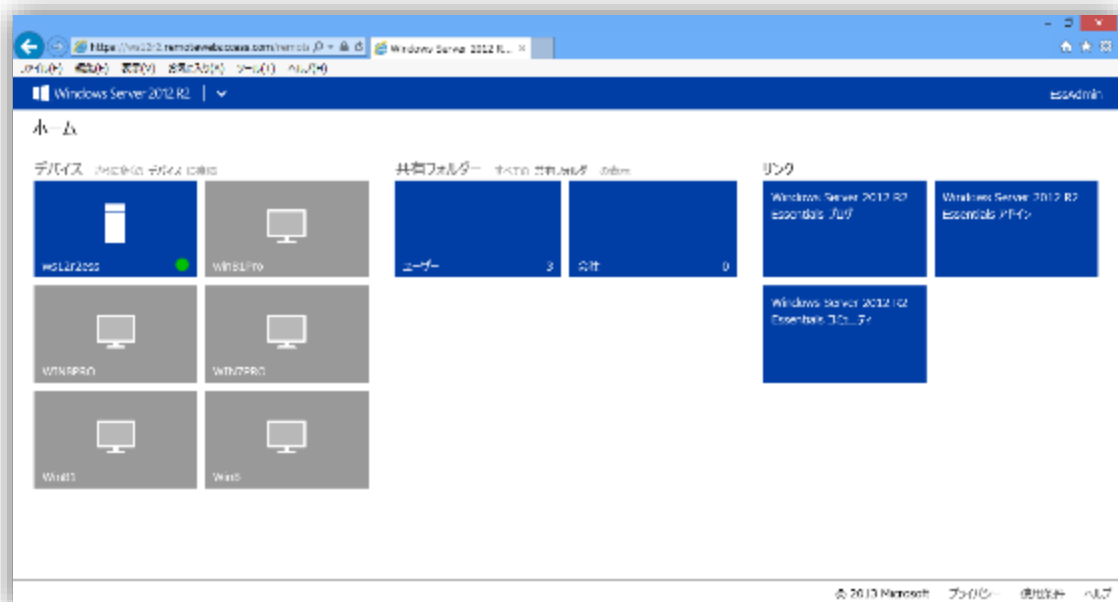
リモート Web アクセス

Windows Server Essentials エクスペリエンスは、リモート Web アクセスを通じてリモート アクセス機能を提供します。リモート Web アクセスは動的に更新される サイトであり、暗号化接続を使用して、小規模ビジネス ネットワークに対しシンプルでセキュリティ保護され、統合化された単一のエントリ ポイントを提供します。また、リモート Web アクセス の Web サイトはデスクトップだけでなくタブレット表示に対応しています。

情報：リモート Web アクセス機能を使用するには、ブロードバンド プロバイダーが提供する追加のサービスが必要になる場合があります。ブロードバンド プロバイダーが提供するサービス、およびサービス契約に関するご質問は、ご契約しているブロードバンド プロバイダーにお問い合わせください。

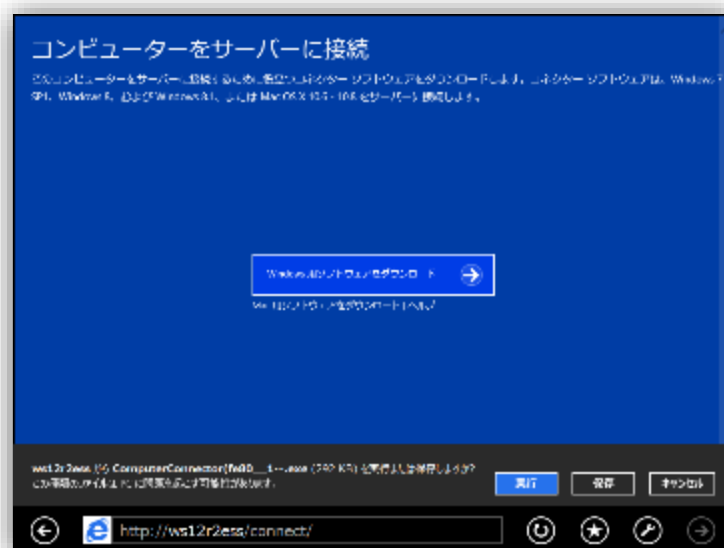


Windows Server Essentials エクスペリエンス のリモート Web アクセスでは、ユーザーはブラウザーを使って、サーバー上に格納されている文書に簡単にアクセスしたり、管理者によって追加されるカスタマイズされたリンクにアクセスしたり、パスワードを変更したりすることができます。また、自分のコンピューターに接続して、その前に座っているかのように使用することができます。また、管理者は Windows Server Essentials エクスペリエンス自体に接続して、リモートで管理タスクを実行することができます。



コンピューターの追加

コンピューターが Windows Server Essentials エクスペリエンス 環境に完全に参加するには、Windows Server Essentials エクスペリエンスに接続する必要があります。これは、サーバーの [コンピューターをサーバーに接続] Web ページにアクセスし、ウィザードを開始することによって実行されます。このウィザードは、Windows Server Essentials エクスペリエンスのネットワークにコンピューターを追加します。また、ビジネス エディションの Windows コンピューターの場合は、オプションでローカルのユーザー プロファイルを移行することもできます。また、リモート Web アクセス経由で在宅など社外から Windows Server Essentials エクスペリエンス ネットワークにコンピューターを追加することもできます。



コンピューターが Windows Server Essentials エクスペリエンス のネットワークに参加すると、Windows Server Essentials エクスペリエンス毎日バックアップが自動的に構成され、スタート パッドがインストールされます。スタート パッドを利用することにより、サーバーフォルダーへのアクセス、手動バックアップの開始、リモート Web アクセス ページの接続、ダッシュボードの起動を簡単に行うことができます。また、VPN 接続の構成も構成されますので、社外から Windows Server Essentials エクスペリエンスで管理している文書などに直接アクセスすることができます。

クラウド サービスの統合

Windows Server Essentials エクスペリエンス は、オンプレミスで実行するアプリケーションやサービスと、クラウドで実行するアプリケーションやサービスとを自由に選択できるように設計されています。Windows Server Essentials エクスペリエンスを使用すれば、オンプレミスで Exchange Server を実行する場合でも、Exchange のホスティング サービスを利用する場合でも、または Office 365 を利用する場合でも同じ種類の統合管理機能を活用することができます。この機能を利用できるのは、最初のドメインコントローラーである必要があります。

メッセージングと Office 365 とのコラボレーション

Office 365 は、電子メール、共有の予定表、文書をオンラインで作成および編集する機能、インスタント メッセージング、Web 会議、社外用パブリック Web サイト、社内用チーム サイトといった機能を提供するオンライン サブスクリプション サービスです。これらのすべての機能には、実質的に場所とデバイスに制限されることなくアクセスすることができます。Windows Server Essentials エクスペリエンス には統合モジュールが含まれているので、オンプレミスの Windows Server Essentials エクスペリエンス とオフプレミスの Office 365 環境の両方のユーザー アカウントをダッシュボードから容易に管理することができます。さらに、クライアント コンピューターに Office 2013 がインストールされている場合には、そのアプリケーションを Office 365 で使用できるように簡単に構成することができます。Office 365 を使用すれば、Office 365 クラウドに保存されている Office 文書の取得、編集、保存を簡単に行い、リアルタイムでの文書の共同作成、コンピューターを使用した気軽な通話、インスタント メッセージの送信、および Web 会議を行うことができます。



ホスト型 Exchange Server

スモールビジネスでは、ホスト型 Exchange Server で提供されるクラウド ベースのメッセージング サービスが広く活用されています。サービス プロバイダーは、Windows Server Essentials エクスペリエンス が提供するフレームワークを基にカスタム アドインを簡単に構築して、特定のホスト型 Exchange 環境で実行することができるので、Windows Server Essentials エクスペリエンス とホスト型 Exchange 環境の両方のユーザー アカウントをダッシュボードから容易に管理することができます。

オンプレミスの Exchange Server

Exchange Server は高い柔軟性と信頼性を備え、何百万ものユーザーがコミュニケーションと生産性向上を目的に毎日使用しているメッセージング プラットフォームです。別のサーバーで実行されている Exchange Server は、Windows Server Essentials エクスペリエンス のコア コンポーネントではありませんが、スモール ビジネス向けに完全にサポートされている電子メール サービスの 1 つです。Office 365 を使用すれば、統合モジュールを利用して、Windows Server Essentials エクスペリエンス と Exchange Server の両方のユーザー アカウントをダッシュボードから容易に管理することができます。

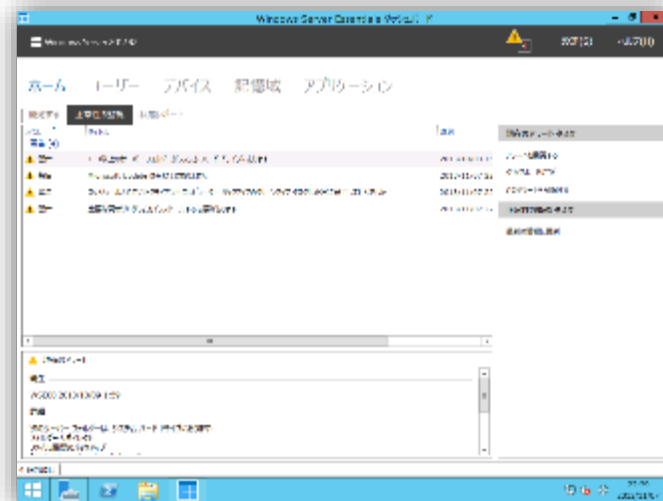
その他のクラウド ベースのアプリケーションおよびサービス

メッセージングとコラボレーションは、多くのスモールビジネスで最初に採用されるクラウド ベースのサービスですが、他にもさまざまなアプリケーションやサービスが利用可能です。Windows Server Essentials エクスペリエンス とその豊富な機能拡張モデルを使用すれば、IT 環境をクラウド化し、マイクロソフトおよびサードパーティが提供するさまざまな機能を活用して、生産性を向上させることができます。

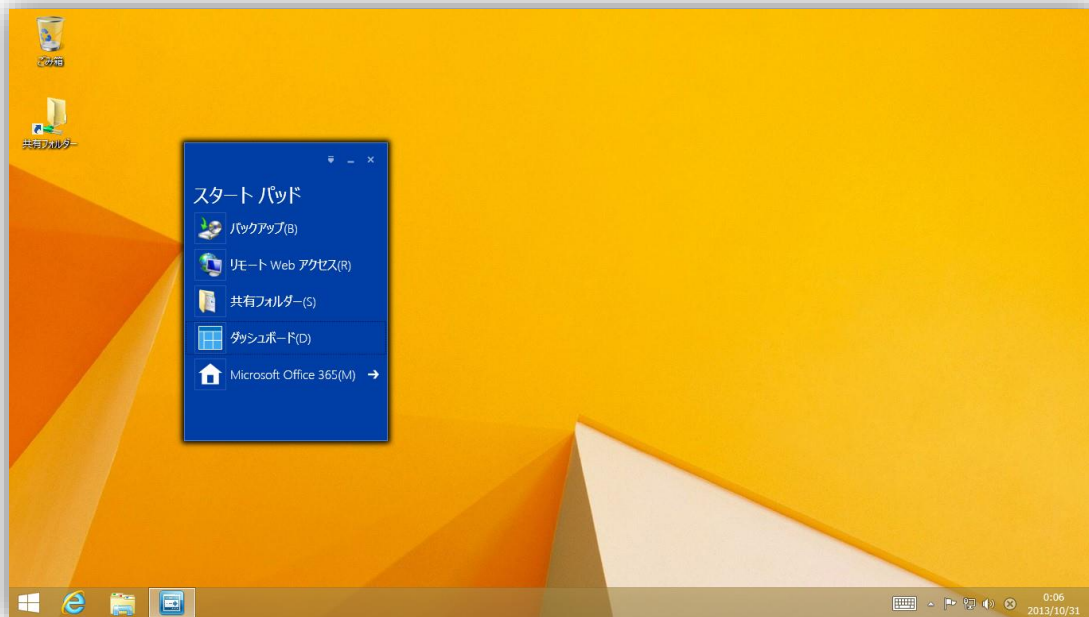
正常性の監視

Windows Server Essentials エクスペリエンス は、ネットワーク上の コンピューター や Windows Server Essentials エクスペリエンスの事前対処型のメンテナンスを推進することによって、企業の生産性を高めるのに寄与します。Windows Server Essentials エクスペリエンス は、サーバーに接続されているすべてのコンピューターを常に監視し、重要な更新プログラム、マルウェア対策保護の欠如、コンピューターのウイルス定義の期限切れ、および対処が必要なその他の重要な問題など、正常性に関する問題が生じた場合に管理者に通知します。これらは、ネットワーク環境の管理にかかるコストの削減に役立ちます。

Windows Server Essentials エクスペリエンス のダッシュボードでは、サーバーおよび接続されているコンピューターの問題がダッシュボードの正常性の監視タブにまとめられ、重大なアラート、警告、情報の各メッセージが表示されます。また、情報を示す説明と、問題の対処が記載されている場所へのリンクによって、管理者は適切なガイダンスが得られます。



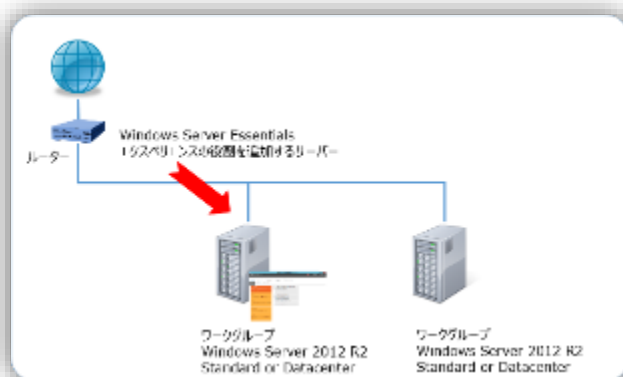
それぞれのコンピューター固有のアラートは [デバイス] タブに一覧表示されます。コンピューターでは、コンピューターに影響を与える問題がスタート パッドに通知されます。多くの場合、この通知によって、管理者の支援を必要とせずにユーザー自身が対処作業を行うことができます。



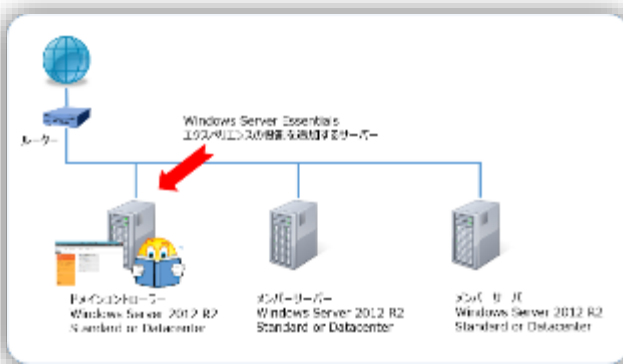
本書のシステム構成

本書では、Windows Server Essentials エクスペリエンス を展開するシステム構成は次のとおりです。

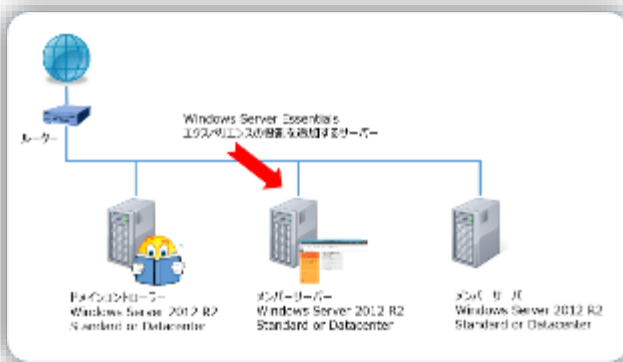
ワークグループ環境



既存のドメイン環境（ドメインコントローラー）



既存のドメイン環境（メンバーサーバー）

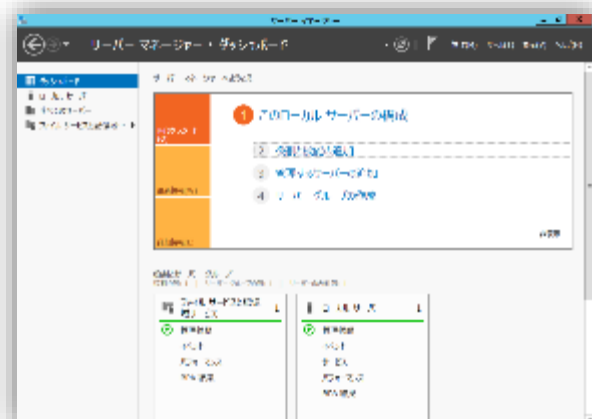


Windows Server Essentials エクスペリエンスの役割のインストール

ここでは、Windows Server 2012 R2 Standard や Datacenter エディションに、Windows Server Essentials エクスペリエンスの役割をインストールする方法を紹介します。

Windows Server Essentials エクスペリエンスの役割のインストール

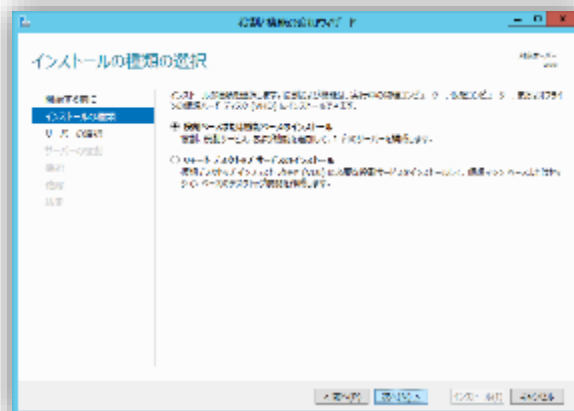
1. サーバーマネージャーを起動し、役割と機能の追加をクリックします。



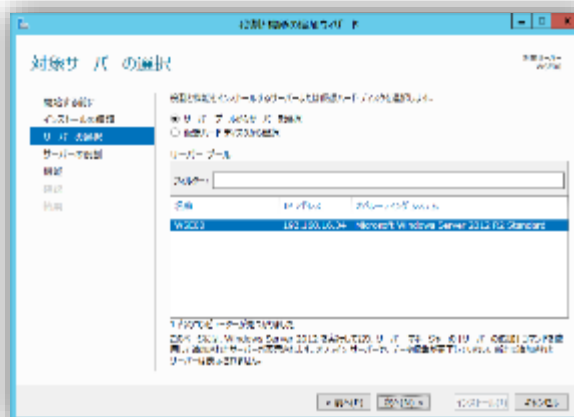
2. [次へ(N)]をクリックします。



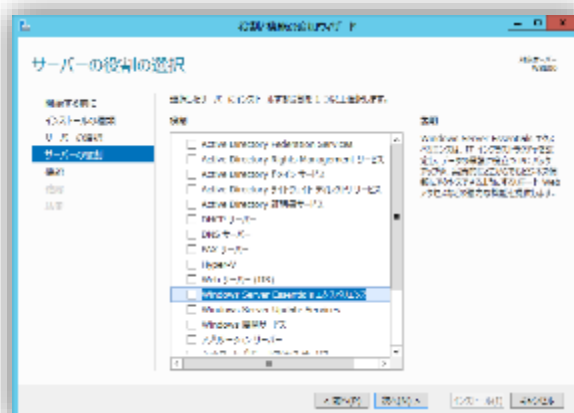
3. [次へ(N)]をクリックします。



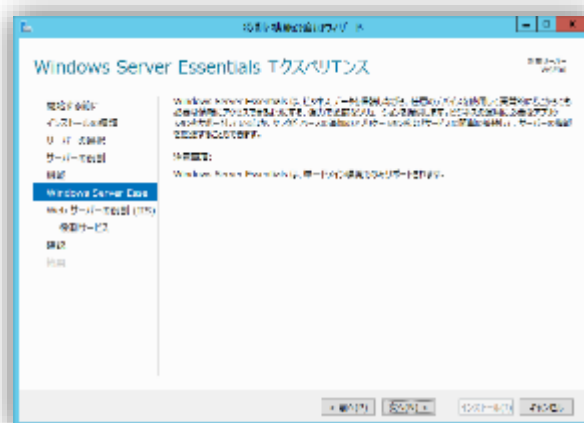
4. [次へ(N)]をクリックします。



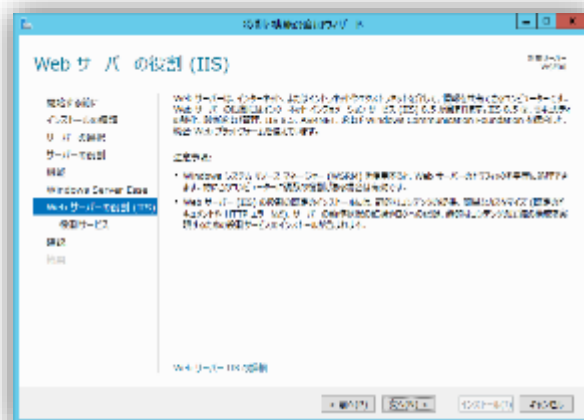
5. [Windows Server Essentials エクスペリエンス]を選択します。



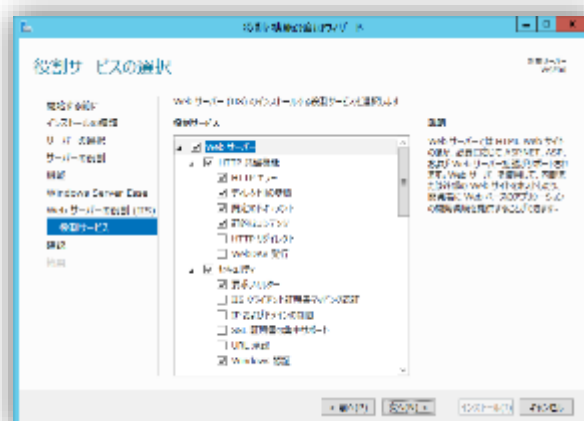
9. [次へ(N)]をクリックします。



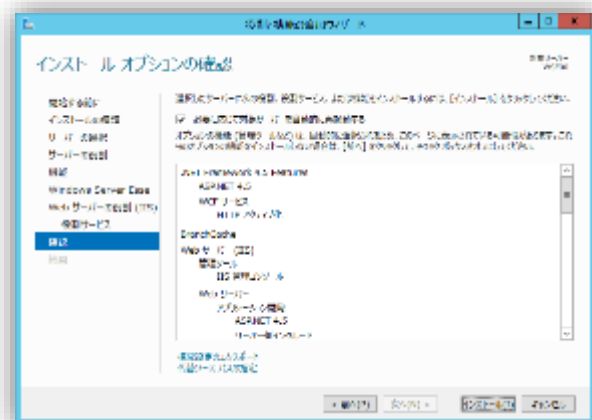
10. [次へ(N)]をクリックします。



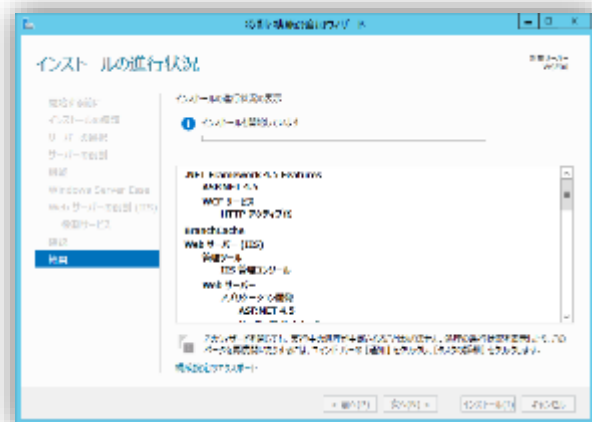
11. [次へ(N)]をクリックします。



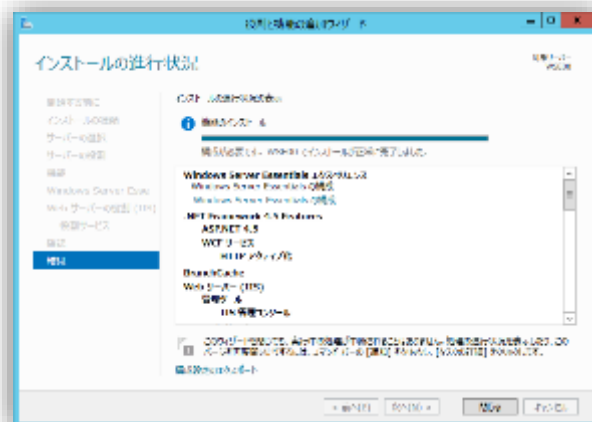
12. [インストール(I)]をクリックします。



13. インストールが開始されます。



14. [閉じる]をクリックします。



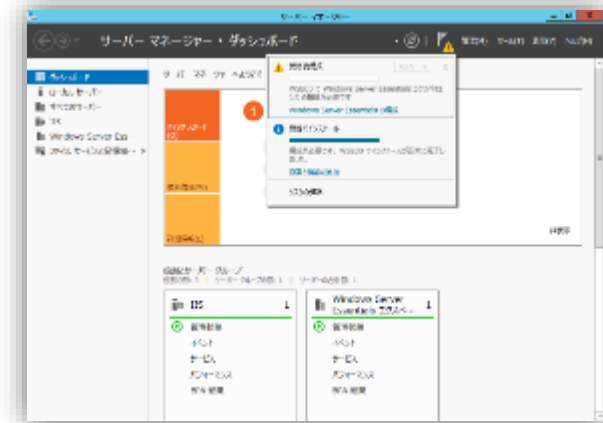
Windows Server Essentials エクスペリエンスの構成

インストールに続いて Windows Server Essentials エクスペリエンスを構成する手順について紹介します。

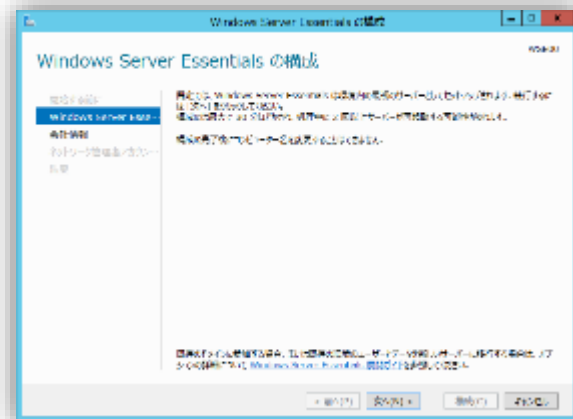
ワークグループの場合

ここでは、Windows Server Essentials エクスペリエンスの役割をワークグループ環境で構成します。役割を構成するとドメインコントローラーとして構築されます。

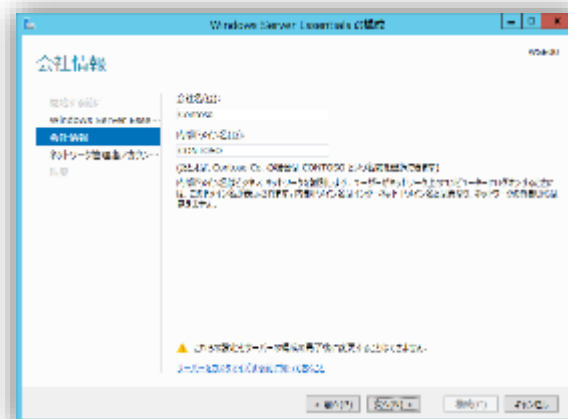
1. [Windows Server Essentials の構成]をクリックします。



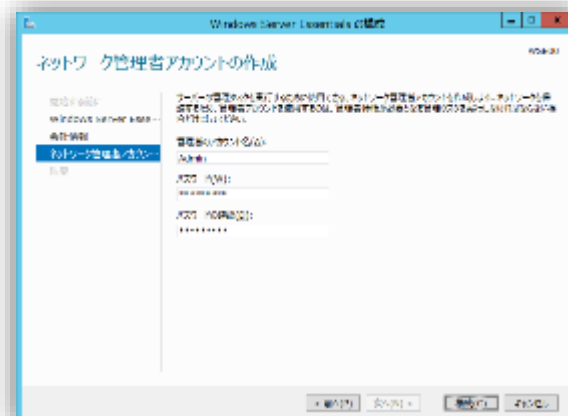
2. [次へ(N)]をクリックします。



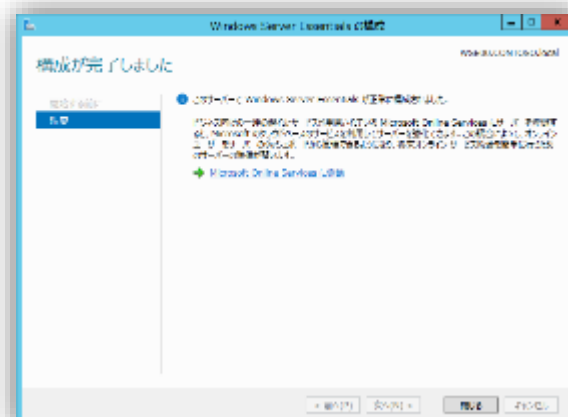
3. 会社名 (O)、内部ドメイン名(D)を入力し、
[次へ(N)]をクリックします。



4. 管理者のアカウント名 (A)、パスワード(W)、
パスワードの確認(D)を入力し、[構成(C)]をクリックします。



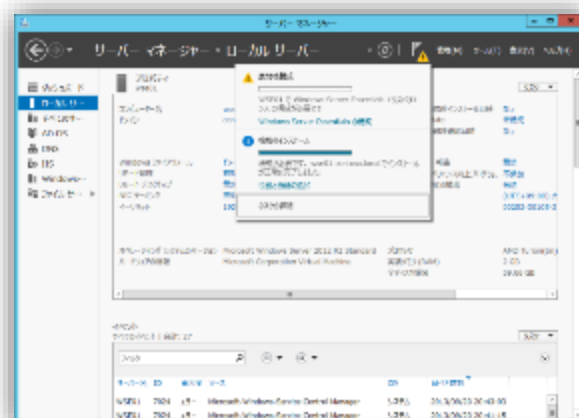
5. [閉じる]をクリックします。



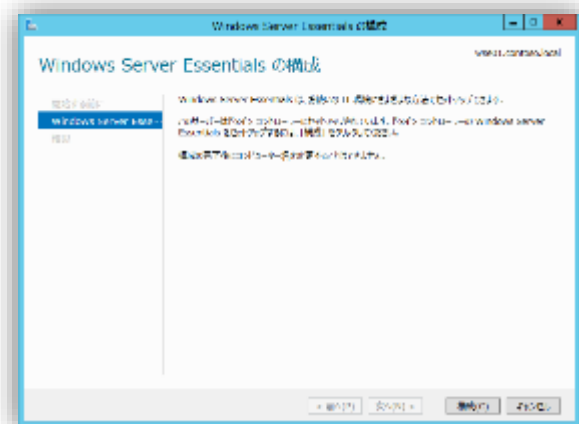
既存のドメイン環境（ドメインコントローラー）の場合

ここでは、Windows Server Essentials エクスペリエンスの役割をドメインコントローラーに構成します。

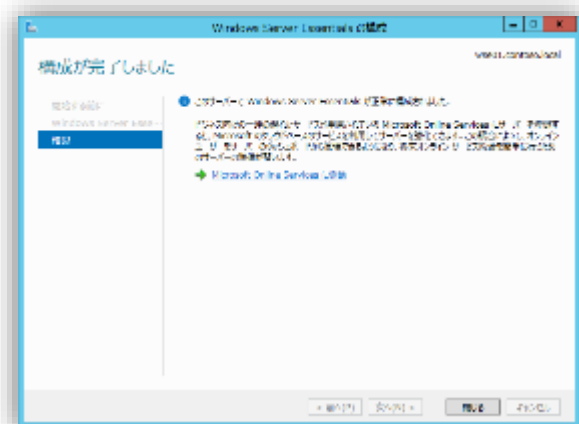
1. [Windows Server Essentials の構成]をクリックします。



2. [構成(C)]をクリックします。



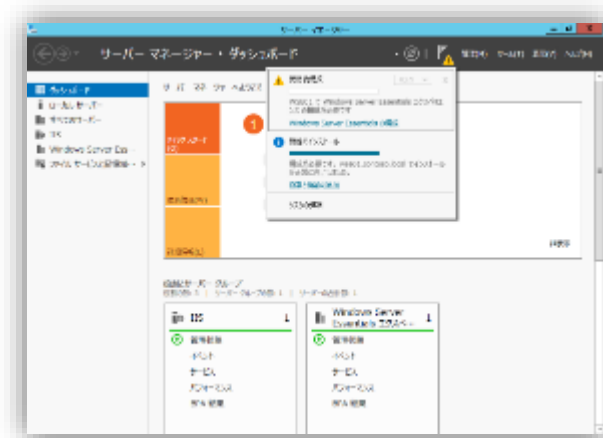
3. [閉じる]をクリックします。



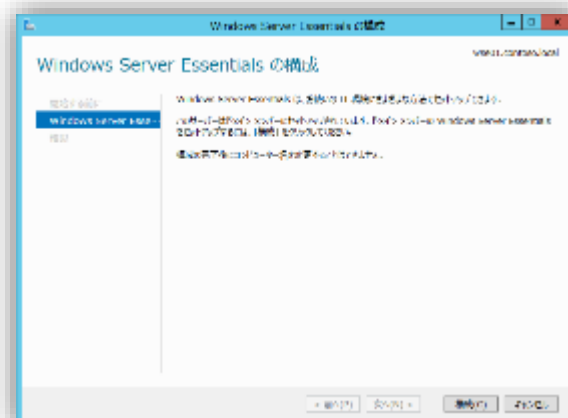
既存のドメイン環境（メンバーサーバー）の場合

ここでは、Windows Server Essentials の役割をメンバーサーバーに構成します。この場合、ダッシュボードからサービスをセッアップすることはできません。

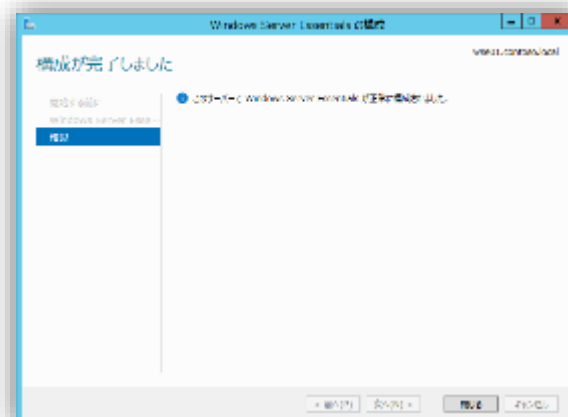
1. [Windows Server Essentials の構成]をクリックします。



2. [構成(C)]をクリックします。



3. [閉じる]をクリックします。



Windows Server Essentials エクスペリエンス のセットアップ

ここでは、Windows Server Essentials エクスペリエンス をダッシュボードでセットアップする方法について紹介します。

セットアップ

Windows Server Essentials エクスペリエンス をインストールした直後に実行するタスクの一覧です。セットアップは、ダッシュボードのホームにあるセットアップタスクから実行します。



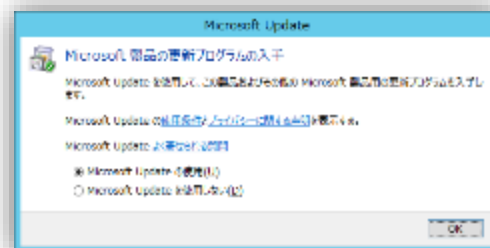
その他の Microsoft 製品の更新プログラムの入手（Windows Update 更新）

このタスクを実行すると Windows Server Essentials エクスペリエンス の Windows Update が有効となり、更新プログラムが自動インストールされるように設定されます。更新プログラムのインストールもここから行います。事前に Windows Update を有効にしておく必要があります。

1. [その他の Microsoft 製品の更新プログラムを入手]を選択します。[クリックして Microsoft Update をアクティブにする]をクリックします。



2. Microsoft 製品の更新プログラム の入手できるように、[Microsoft Update の使用(U)]を選択し、[OK]をクリックします。



サーバーバックアップのセットアップ

このタスクでは、Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップの設定をします。このタスクを実行する前に新しいハードディスクを追加しておく必要があります。バックアップに利用するディスクは、オンラインとなっている必要があります。

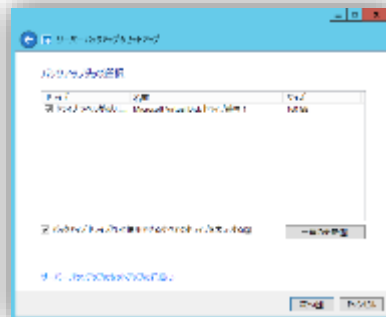
1. [サーバーバックアップのセットアップ]を選択します。[クリックしてサーバーバックアップをセットアップする]をクリックします。



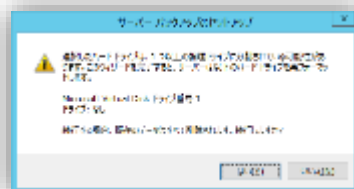
2. [次へ]をクリックします。



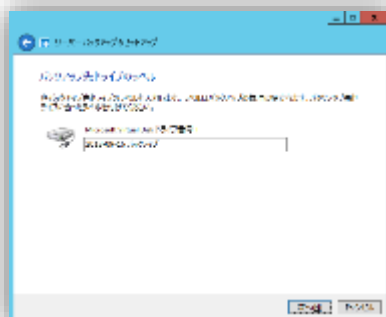
3. バックアップ先ディスクを選択し、[次へ]をクリックします。



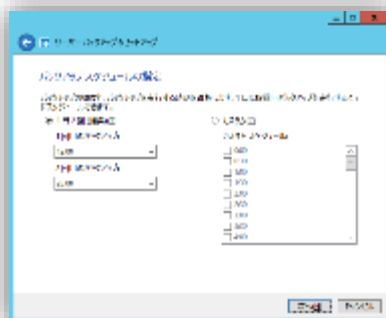
4. 選択されたディスクが再フォーマットされる警告が表示されます。



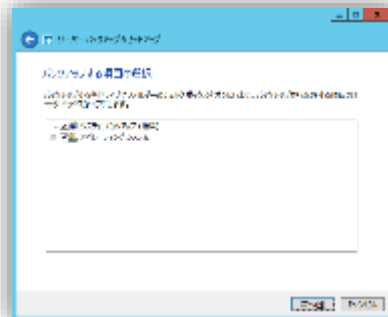
5. バックアップ先のドライブにつけるラベルを入力し、[次へ]をクリックします。



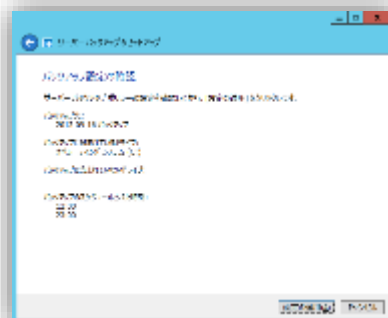
6. バックアップスケジュールを選択し、[次へ]をクリックします。既定では、12:00と23:00の1日2回のバックアップが取得されるように選択されています。



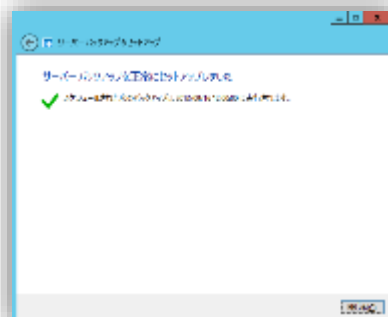
7. バックアップする項目を選択し、[次へ]をクリックします。



8. バックアップの設定項目一覧が表示されます。設定内容が正しければ、[設定の適用]をクリックします。修正が必要な場合は、左上の戻るボタンをクリックし、修正する項目のページに戻ります。



9. サーババックアップの設定が完了しました。[閉じる]をクリックします。



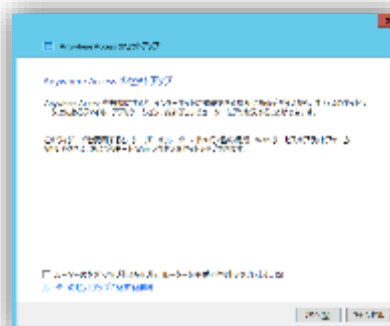
Anywhere Access のセットアップ

このタスクでは、Windows Server Essentials エクスペリエンス の Anywhere Access の設定をします。Anywhere Access では、ドメイン名、ルーター、Web サイトの設定を自動的に行います。

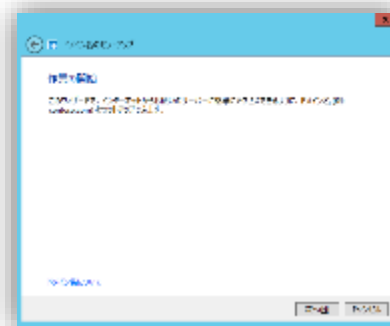
1. [Anywhere Access のセットアップ]を選択します。[クリックして Anywhere Access を構成する]をクリックします。



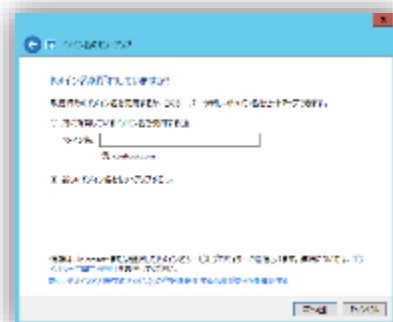
2. [次へ]をクリックします。ルーターのセットアップを手動で構成するには、[ルーターのセットアップをスキップし、ルーターを手動でセットアップします]のダイアログボックスにチェックを入れます。



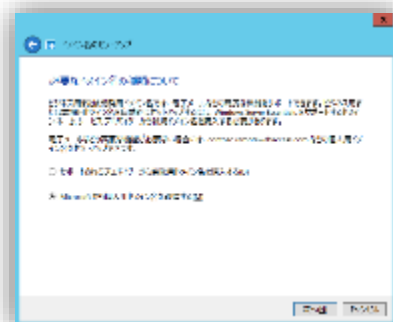
3. [次へ]をクリックします。



4. [新しいドメイン名をセットアップする]を選択し、[次へ]をクリックします。既にドメイン名を取得している場合は、ドメイン名を入力します。



5. Microsoft から提供される無料のドメイン名を使用するために、[Microsoft から個人用ドメイン名を取得する]を選択し、[次へ]をクリックします。



6. Microsoft アカウント とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



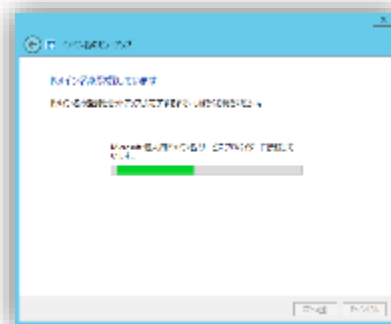
7. 新しいドメイン名を作成する(D)を選択し、[次へ]をクリックします。



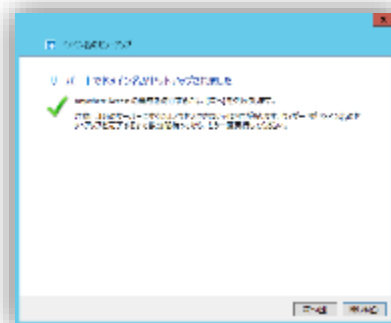
8. 登録するドメイン名(D)を入力し、[セットアップ(S)]をクリックします。



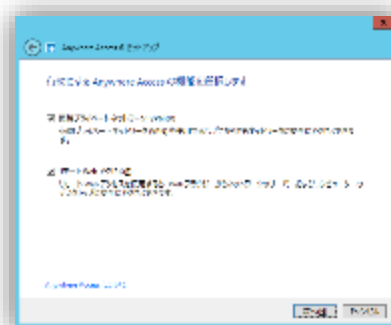
9. ドメイン名を登録しています。



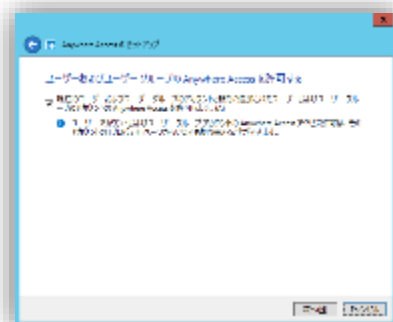
10. [次へ]をクリックします。



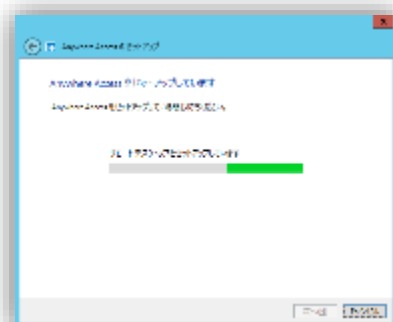
11. 仮想プライベートネットワーク、リモート Web アクセスを選択し、[次へ]をクリックします。



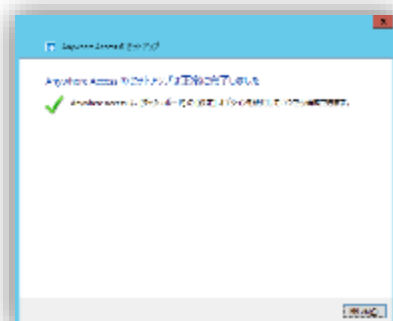
12. チェックボックスにチェックを入れ、[次へ(N)]をクリックします。



13. Anywhere Access のセットアップをしています。



14. Anywhere Access のセットアップが完了しました。[閉じる]をクリックします。



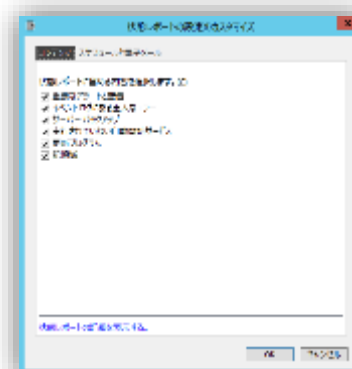
状態レポートの設定

Windows Server Essentials エクスペリエンス の状態を定期的に報告するようにサーバーを構成します。状態レポートは指定した電子メールアドレス宛に通知することができます。この通知によってサーバーにログインしていなくても、サーバーの状態を把握することができます。

1. [状態レポートの設定のカスタマイズ]を選択します。[クリックして状態レポートの設定をカスタマイズする]をクリックします。



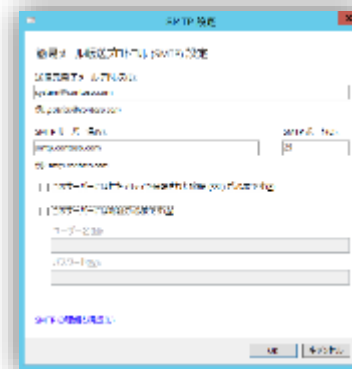
2. 状態レポートに含める内容を選択します。



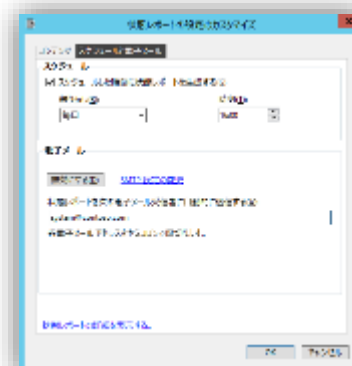
3. スケジュールと電子メールタブをクリックし、[有効にする]をクリックします。



4. 送信元メールアドレス(E)、SMTP サーバー名(Y)、SMTP ポート(O)を入力し、[OK]をクリックします。
- 必要に応じてセキュリティや認証のオプションを設定します。



5. 状態レポートを受信する電子メールアドレスを入力し、[OK]をクリックします。



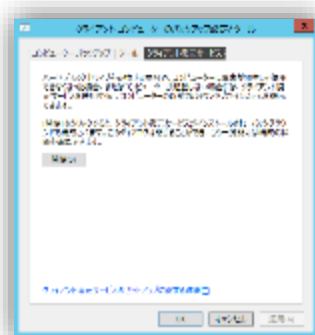
クライアント復元サービスのセットアップ

クライアントを復元するために必要な回復キーを作成できるようにします。回復キーは USB メモリに保存され、回復したいクライアントを起動するために使用します。クライアント復元サービスをセットアップするには Windows アセスメント & デバロップメント をダウンロードして、インストールする必要があります。

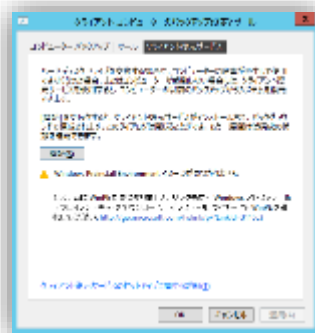
1. [クライアント復元サービスのセットアップ]を選択します。[クライアント復元サービスのセットアップ]をクリックします。



2. [開始(S)]をクリックします。



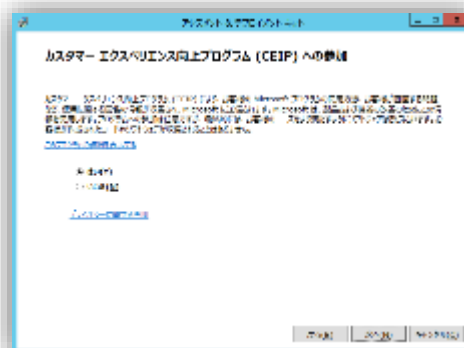
3. 表示されたリンクをクリックします。



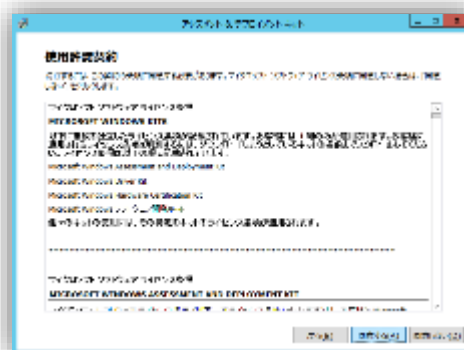
4. このコンピューターにアクセス & デプロイメントキットをインストールしますを選択し、[次へ(N)]をクリックします。



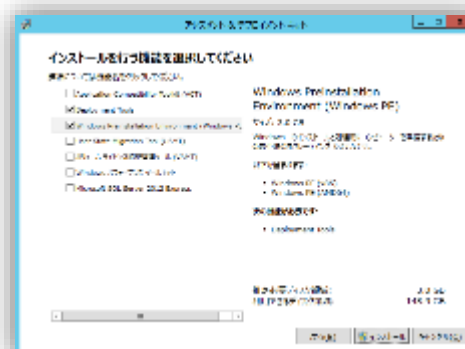
5. [次へ(N)]をクリックします。



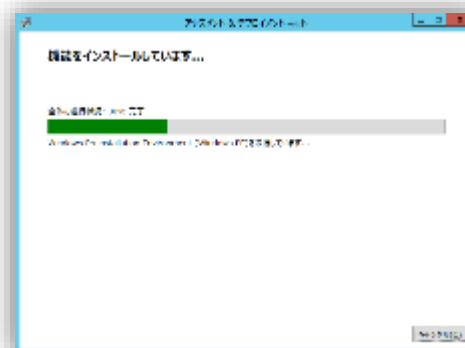
6. [同意する(A)]をクリックします。



7. Windows Preinstallation Environment して、[インストール]をクリックします。



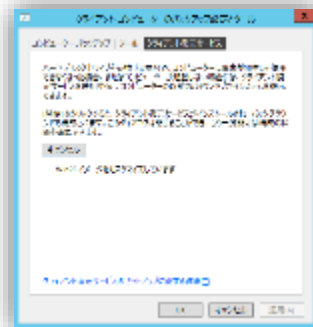
8. インストールが開始されます。



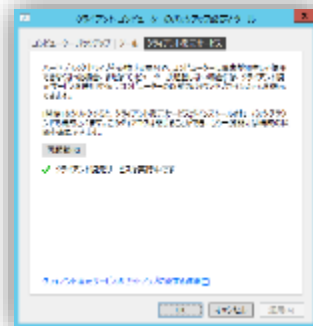
9. [閉じる(C)]をクリックします。



10. 再度、[開始する]をクリックすると、クライアント復元サービスを構成します。



11. [OK]をクリックします。



サービスとの連携

ここでは、クラウドサービスと連携する場合の手順について紹介します。サービスと連携するには、Windows Server Essentials エクスペリエンスが最初のドメインコントローラーに構成されている時だけ利用できます。

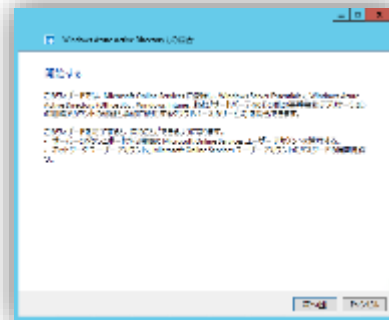


Windows Azure Active Directory との 統合

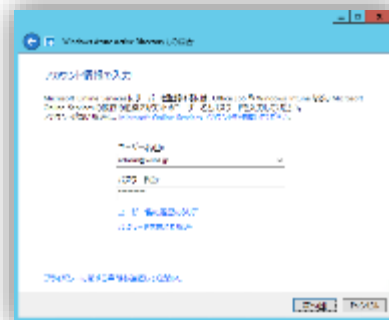
1. [Windows Azure Active Directory との統合]を選択します。右側の[Windows Azure Active Directory との統合]のリンクをクリックします。



2. [次へ(N)]をクリックします。



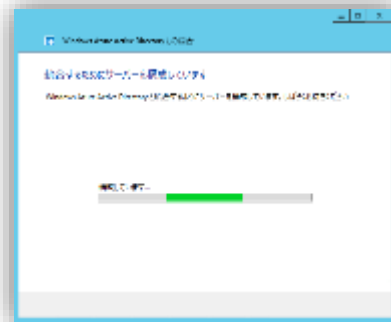
3. Microsoft Online サービスのユーザー名(U)、パスワード(P)、[次へ(N)]をクリックします。



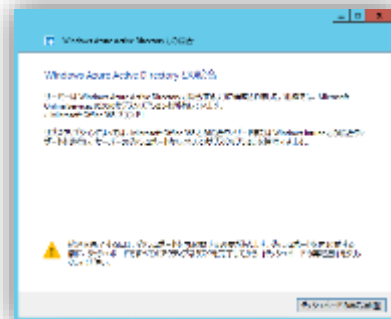
4. チェックボックスを選択し、パスワードポリシーが Microsoft Online サービスでも利用できるように強力なパスワードポリシーへ変更する必要があります。[次へ(N)]をクリックします。



5. Windows Azure Active Directory との統合が開始されます。



6. Windows Azure Active Directory の統合内容がダッシュボードに反映させるために、[ダッシュボードの再起動(R)]をクリックします。



Microsoft Office365 との統合

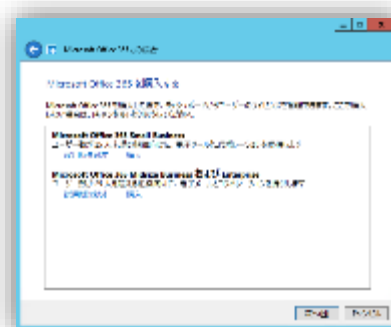
1. [Microsoft Office365 との統合]を選択します。右側の[Microsoft Office365 との統合]のリンクをクリックします。



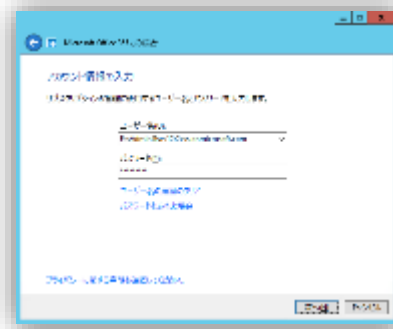
2. [次へ(N)]をクリックします。



3. 試用版または購入をクリックします。[次へ(N)]をクリックします。



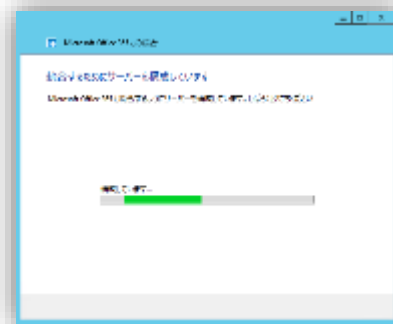
- Microsoft Office365 サブスクリプションに使用するユーザー名とパスワードを入力し、[次へ(N)]をクリックします。



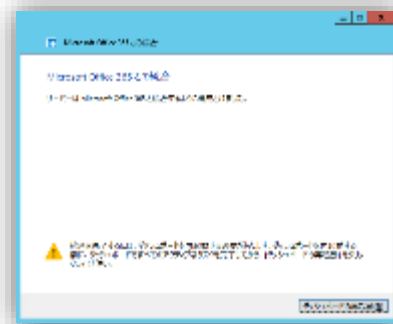
- チェックボックスを選択し、パスワードポリシーが Microsoft Online サービスでも利用できるように強力なパスワードポリシーへ変更する必要があります。[次へ(N)]をクリックします。



- Microsoft Office365 との統合が開始されます。

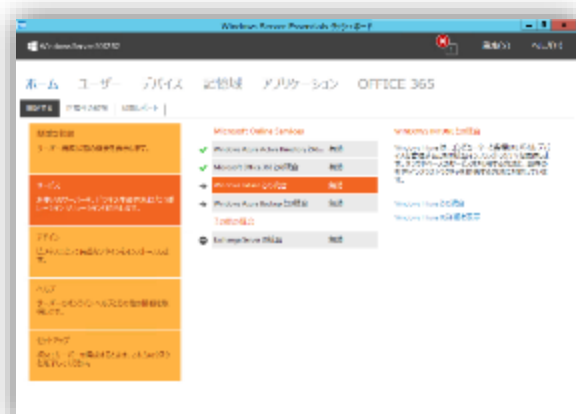


- Microsoft Office365 の統合内容がダッシュボードに反映させるために、[ダッシュボードの再起動(R)]をクリックします。

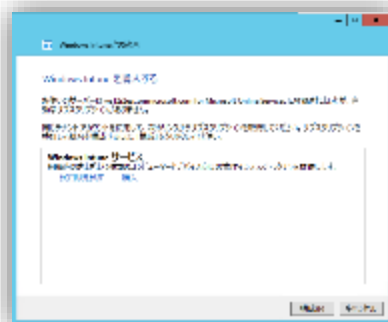


Windows Intune との統合

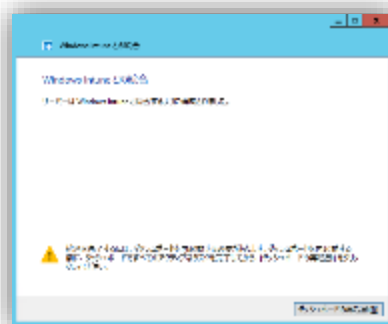
1. [Windows Intune との統合]を選択します。右側の[Windows Intune との統合]のリンクをクリックします。



2. 試用版または購入をクリックします。[構成(E)]をクリックします。



3. Windows Intune の統合内容がダッシュボードに反映させるために、[ダッシュボードの再起動(R)]をクリックします。

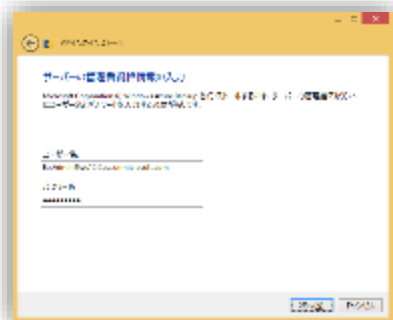


Windows Azure Backup との統合

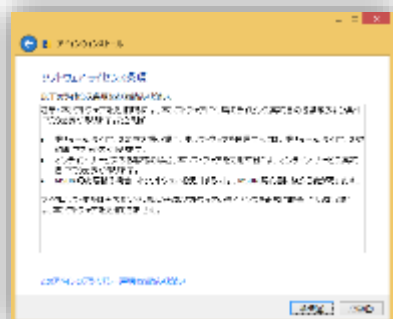
1. [Windows Azure Backup との統合]を選択します[クリックして、Windows Azure Backup にサインアップする]のリンクをクリックします。



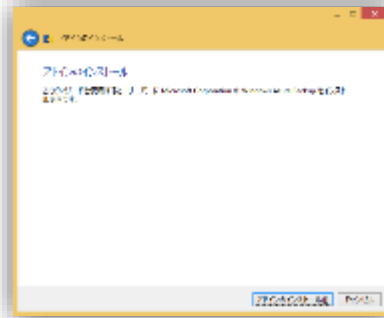
2. Windows Azure Backup のユーザー名とパスワードを入力し、[次へ(N)]をクリックします。



3. [承諾(A)] をクリックします。



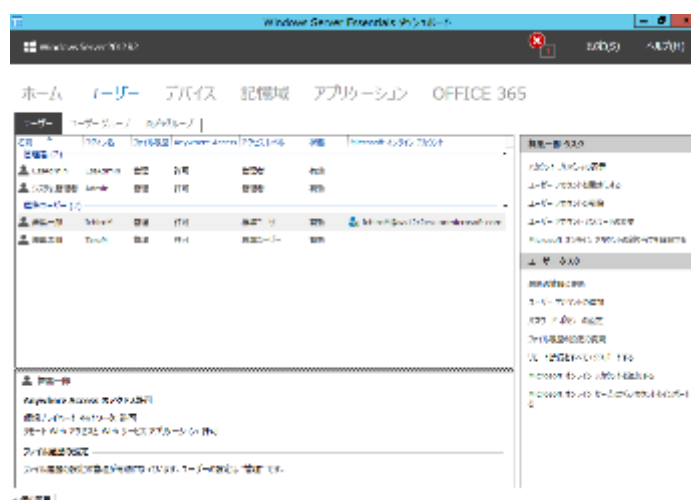
4. [アドインのインストール(I)]をクリックします。



Windows Server Essentials エクスペリエンス の活用

Windows Server Essentials エクスペリエンス のユーザー管理

ここでは、Windows Server Essentials エクスペリエンス でユーザー管理について紹介します。ユーザーの追加、削除、無効、メールアドレスの割り当てなどユーザー管理を実行するには、ダッシュボードのユーザータブから行います。ここで表示されるユーザーは、Active Directory に登録されているユーザーが表示されます。

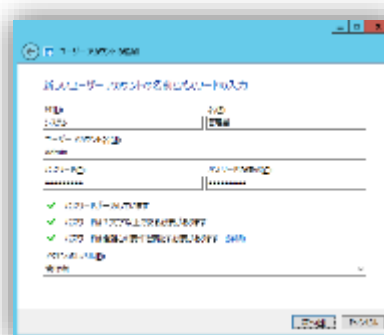


アカウントの新規作成（管理者）

Windows Server Essentials エクスペリエンス の管理者を新しく作成する方法（サーバーのセットアップ）です。管理者は、ダッシュボードを使用して Windows Server Essentials エクスペリエンス を管理することができます。

1. [ユーザー]サブタブのユーザータスクにある[ユーザーアカウントの追加]をクリックします。

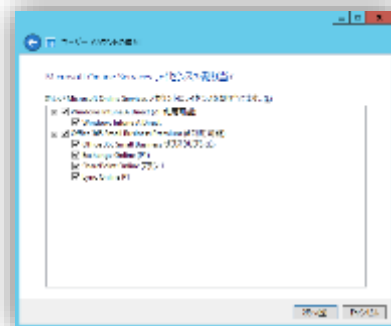
必要事項を入力します。アクセスレベルは[管理者]を選択し、[次へ]をクリックします。



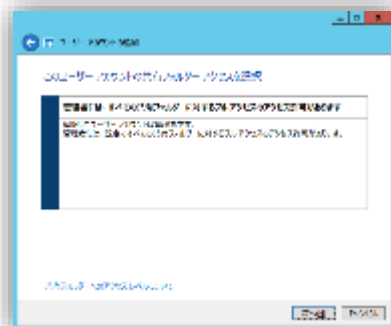
2. 電子メールサービスに Office 365 を選択した場合、電子メールアドレス作成に必要な事項を入力し、[次へ]をクリックします。既に Office 365 アカウントがある場合は、アカウントを割り当てることもできます。



3. Microsoft Online Service アカウントで利用するサービスを選択し、[次へ]をクリックします。選択したサービスは、ライセンスの割り当てが行われます。



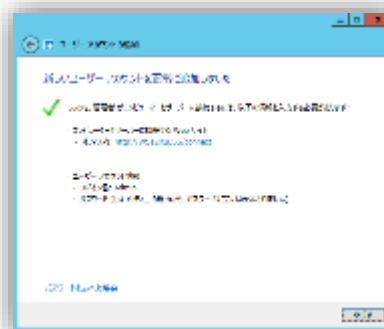
4. 管理者はサーバーフォルダーへのフルアクセス権が与えられます。[次へ]をクリックします。



5. 管理者は Anywhere Access へのアクセス権が与えられます。[次へ]をクリックします。



6. [閉じる]をクリックします。

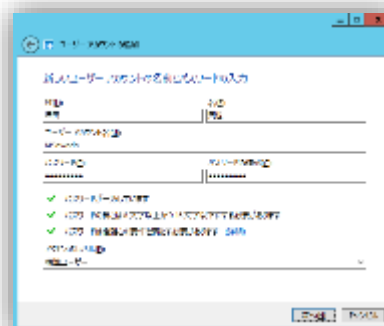


アカウントの新規作成（標準ユーザー）

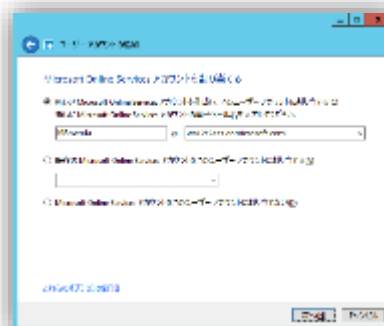
Windows Server Essentials エクスペリエンス の標準ユーザーを新しく作成する方法です。

1. [ユーザー]サブタブのユーザータスクにある[ユーザーアカウントの追加]をクリックします。

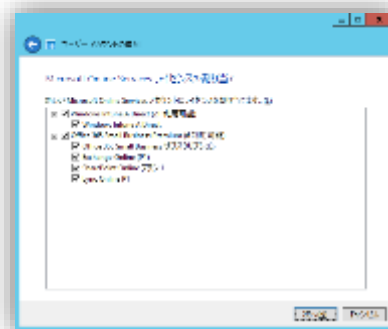
必要事項を入力します。アクセスレベルは標準ユーザーを選択し、[次へ]をクリックします。



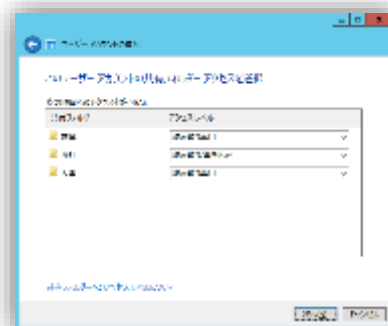
2. 電子メールサービスに Office 365 を選択した場合、電子メールアドレス作成に必要な事項を入力し、[次へ]をクリックします。既に Office 365 アカウントがある場合は、アカウントを割り当てることもできます。



3. Microsoft Online Service アカウントで利用するサービスを選択し、[次へ]をクリックします。選択したサービスは、ライセンスの割り当てが行われます。



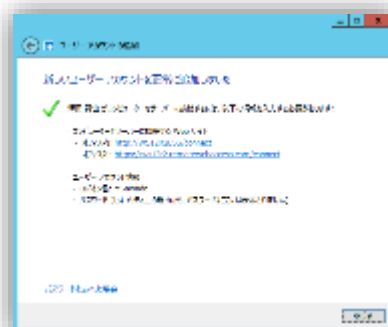
4. 標準ユーザーはサーバーフォルダーへのアクセス権に読み取りが与えられます。必要に応じて、アクセス権を変更し、[次へ]をクリックします。



5. 標準ユーザーは VPN の許可、リモート Web アクセスのアクセス権を選択し、[次へ]をクリックします。



6. [閉じる]をクリックします。

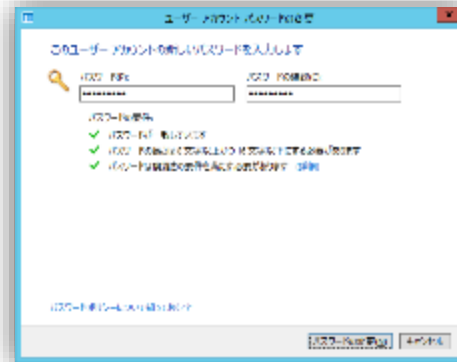


パスワードの変更

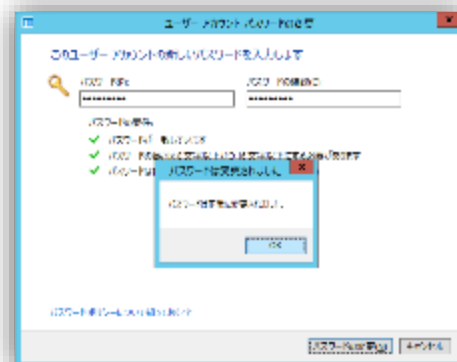
Windows Server Essentials エクスペリエンス で、ユーザーアカウントのパスワード変更する方法です。

1. パスワードを変更したいユーザーアカウントを選択し、各ユーザータスクの[ユーザー アカウント パスワードの変更]をクリックします。

新しいパスワードを入力して、[パスワードの変更]をクリックします。



2. [OK]をクリックします。



アカウントの有効と無効

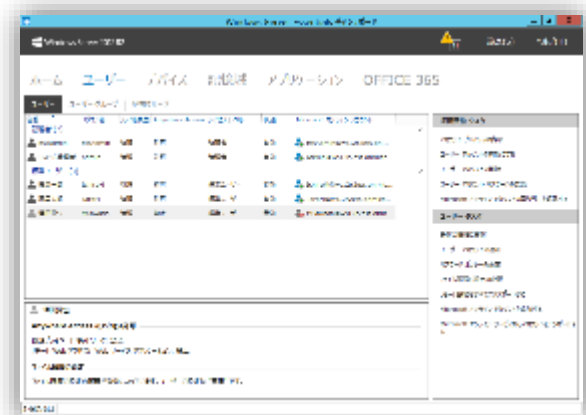
Windows Server Essentials エクスペリエンス で、ユーザーアカウントを無効にする方法です。同様の操作でアカウントを有効にすることができます。

1. アカウントを無効にしたいユーザーアカウントを選択し、各ユーザータスクの[ユーザー アカウントを無効にする]をクリックします。

[はい]をクリックします。



2. ユーザーリストの状態が[無効]となったことを確認します。

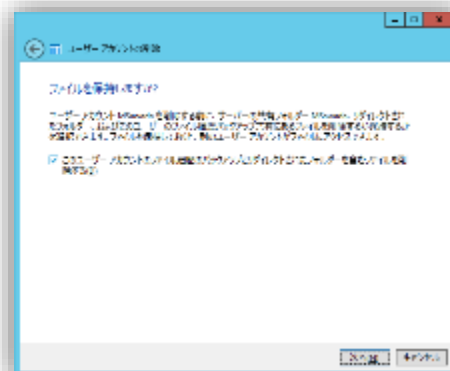


アカウントの削除

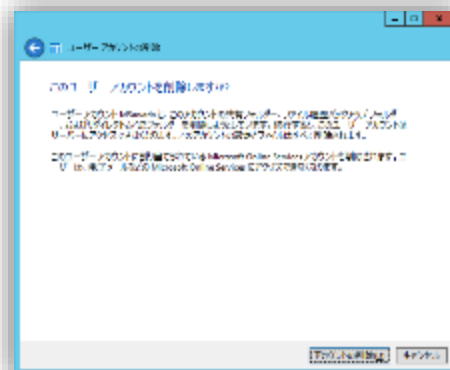
Windows Server Essentials エクスペリエンス で、ユーザーアカウントを削除する方法です。

1. 削除したいユーザーアカウントを選択し、各ユーザータスクの[ユーザー アカウントの削除]をクリックします。

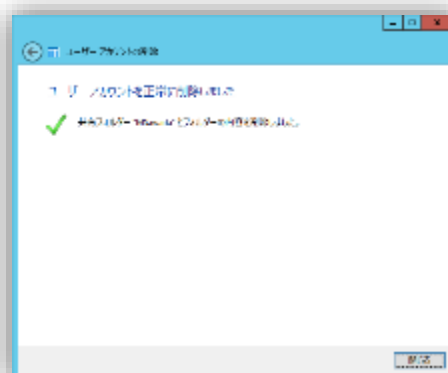
チェックボックスをチェックし、[次へ]をクリックします。



2. [アカウントの削除]をクリックします。



3. [閉じる]をクリックします。

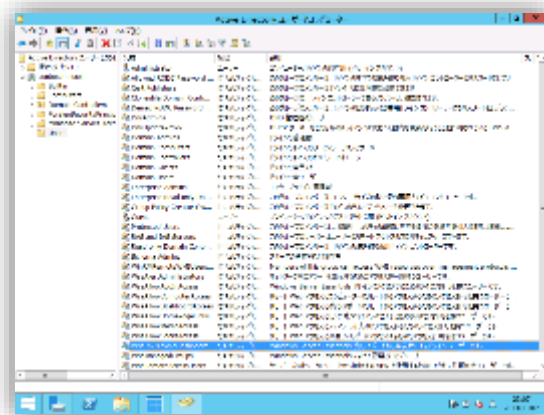


ダッシュボードへ表示させないアカウントの設定

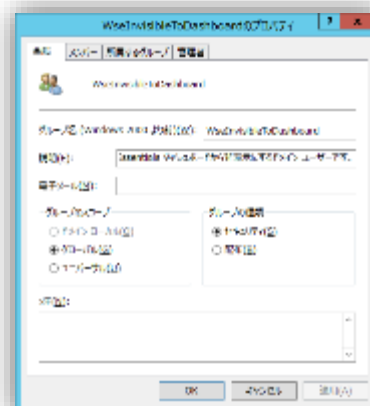
Windows Server Essentials ダッシュボード上にユーザーアカウントを表示させない方法です。

1. Active Directory ユーザーとコンピューターを開きます。

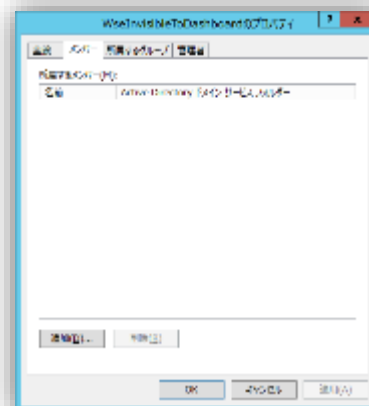
[WseInvisibleToDashboard] セキュリティグループを選択します。



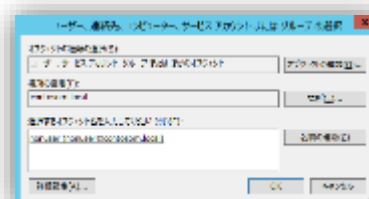
2. メンバータブをクリックします。



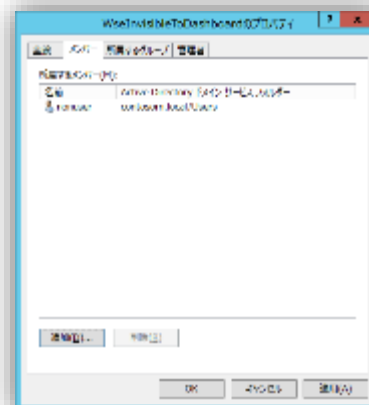
3. [追加]をクリックします。



4. ダッシュボードに非表示にしたいユーザーを選択し、[OK]をクリックします。



5. [適用]をクリックします。



パスワードポリシーの設定

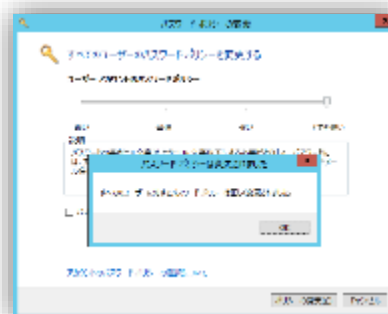
Windows Server Essentials エクスペリエンス では、ユーザーのパスワードポリシーの強度を 4 段階から選択します。Microsoft のクラウドサービスと連携すると「とても強い」に設定されます。

1. ユーザータスクにある[パスワードポリシーの設定]をクリックします。

パスワードポリシー設定し[ポリシーの変更]をクリックします。



2. [OK]をクリックします。

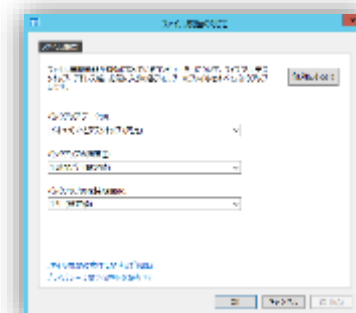


ファイルの履歴の設定

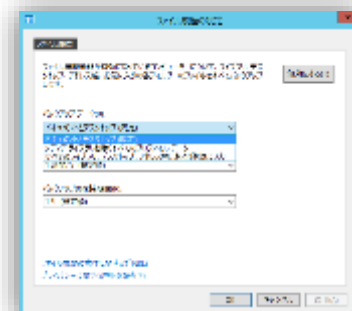
Windows 8 や Windows 8.1 のファイル履歴の設定を行います。

1. ユーザータスクにある[ファイル履歴の設定の変更]をクリックします。

バックアップするデータの範囲、頻度、保持期間を設定することができます。



2. バックアップデータは、「ドキュメントとデスクトップ」、「メディアライブラリを除くすべてのプロファイルデータ」、「すべてのライブラリ、デスクトップ、アドレス帳、およびお気に入り」の3つから選択できます。

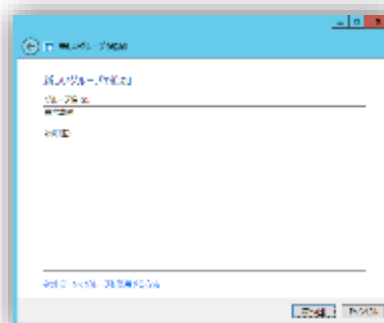


グループの追加

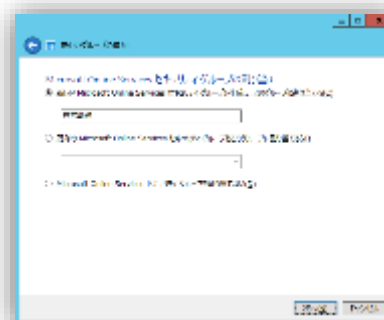
Windows Server Essentials エクスペリエンス のユーザーをまとめて管理するグループを作成します。

1. [ユーザーグループ]サブタブをクリックし、ユーザータスクにある[ユーザー グループの追加]をクリックします。

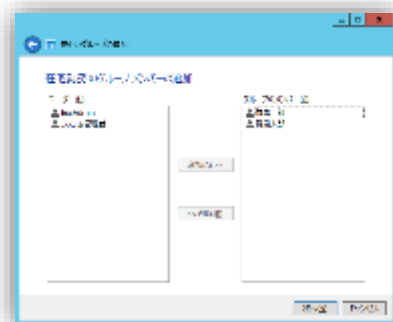
[グループ名]を入力し、[次へ]をクリックします。



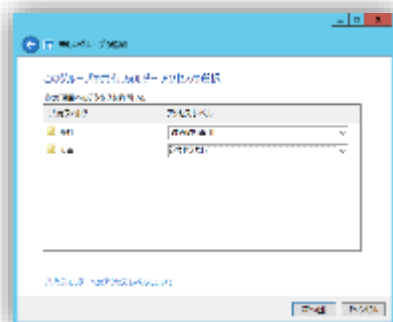
2. 電子メールサービスに Office 365 を選択した場合、新しいセキュリティグループ名を入力し、[次へ]をクリックします。既に Office 365 セキュリティグループがある場合は、セキュリティグループを割り当てることもできます。



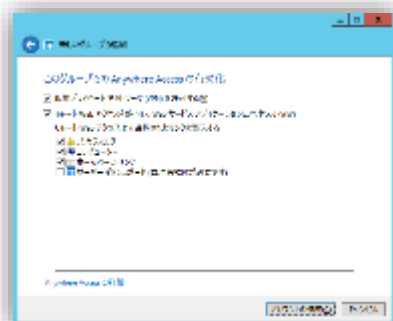
3. グループのメンバーを追加し、[次へ]をクリックします。



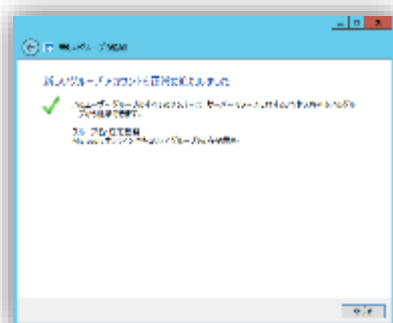
4. サーバフォルダーへのアクセス権を選択し、[次へ]をクリックします。



5. Anywhere Access へのアクセス権を選択し、[次へ]をクリックします。



6. [閉じる]をクリックします。



Windows Server Essentials エクスペリエンス のデバイスの管理

ここでは、Windows Server Essentials エクスペリエンス でデバイスの管理を行うための準備を行う方法について紹介します。コンピュータの削除やバックアップの設定などのデバイスの管理は、ダッシュボードのデバイスタブで行います。



コネクタ アプリケーションのインストール（Windows の場合）

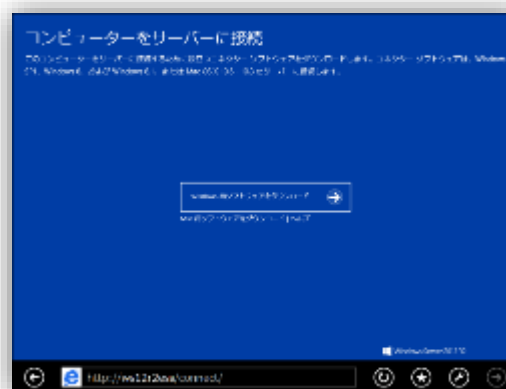
コネクタ アプリケーションをするには、Web ブラウザーを開き、<http://<サーバー名>/connect> または <http://<リモート Web アクセスの URL>/connect> と入力します。これによってスタート パッドがインストールされ、サーバーフォルダーへのアクセス、バックアップの開始、リモート Web アクセス ページへの接続、ダッシュボードの表示を簡単に行うことができます。

1. Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

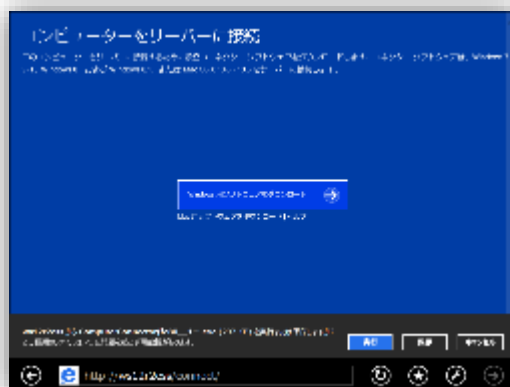
社内 : <http://<サーバー名>/connect>

社外 : <http://<リモート Web アクセスの URL>/connect>

[Windows 用ソフトウェアのダウンロード]をクリックします。



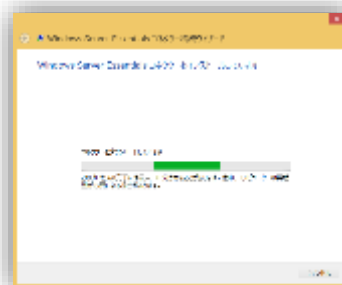
2. [実行]ボタンをクリックします。



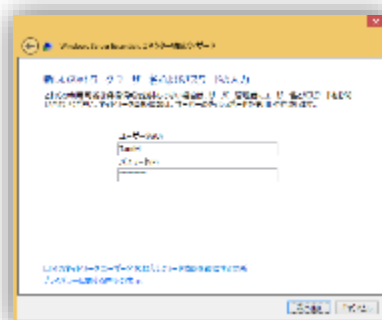
3. [次へ]をクリックします。



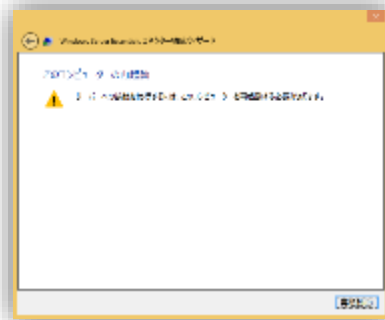
4. コネクタアプリケーションがダウンロードされます。



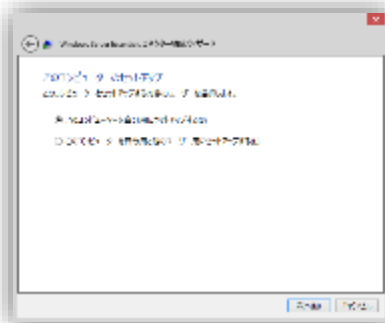
5. ユーザー名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



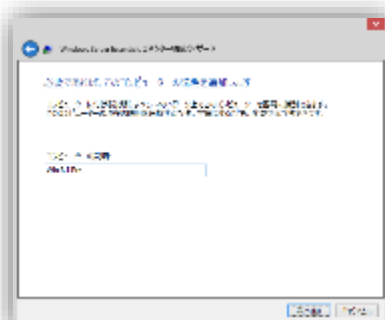
6. [再起動]をクリックします。



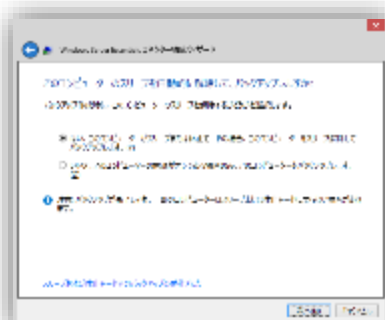
7. このコンピューターをセットアップする対象のユーザーを選択します。
ここでは、[このコンピューターを自分用にセットアップする]を選択します。



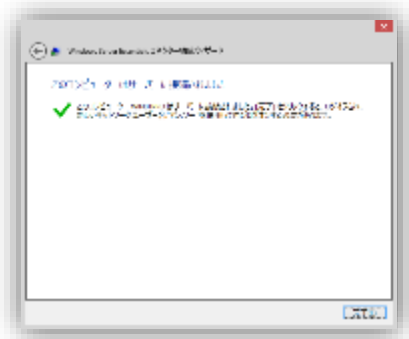
8. [コンピューターの説明]を入力し、[次へ]をクリックします。入力されたコンピューターの説明は、ダッシュボードに表示されます。



9. コンピューターがスリープしている時のバックアップの動作について選択し、[次へ]をクリックします。



10. [完了]をクリックします。



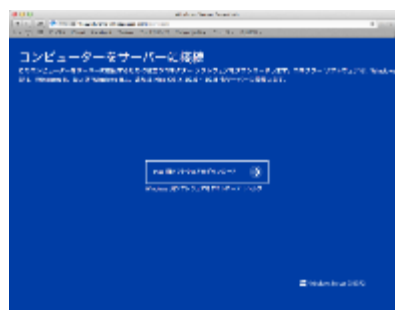
11. ログインするとスタートパッドが自動的に起動します。スタートパッドはタスクトレイに格納されます。



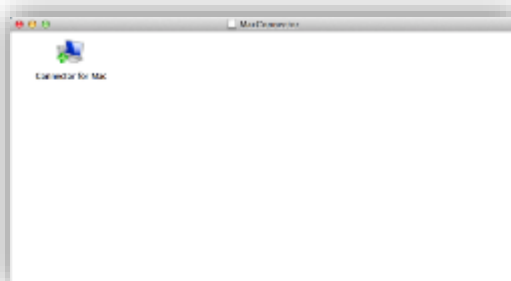
コネクタ アプリケーションのインストール（MacOS X の場合）

1. Web ブラウザーを開き、以下のアドレスを入力します。
`http://<サーバー名>/connect`

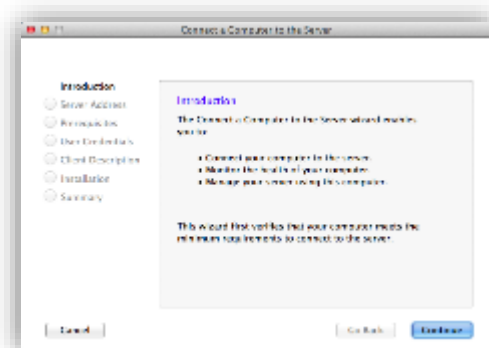
「Mac 用ソフトウェアをダウンロード」をクリックします。



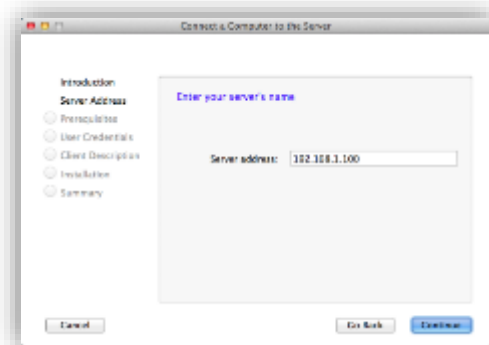
2. [Connector for Mac] をクリックします。



3. [Continue] をクリックします。



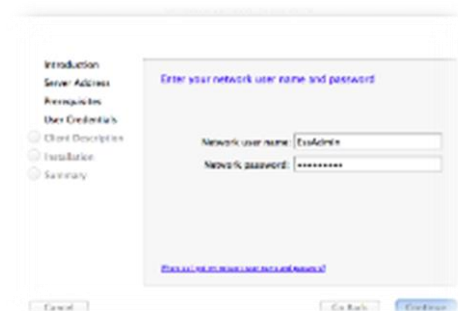
4. サーバーの IP アドレスを入力し、[Continue]をクリックします。



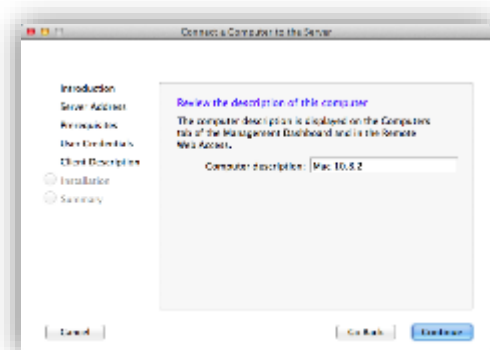
5. コンピューター名を入力し、[Continue] をクリックします。



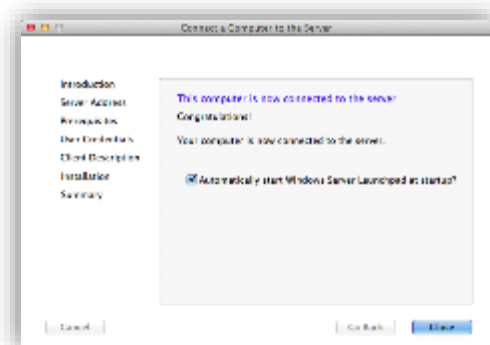
6. ユーザー名とパスワードを入力し、[Continue] をクリックします。



7. [コンピューターの説明]を入力し、[Continue] をクリックします。



8. スタートパッドを自動的に起動する場合は、チェックボックスにチェックを入れ、[Close] をクリックします。



9. ログインすると Launchpad (スタートパッド) が自動的に起動されます。

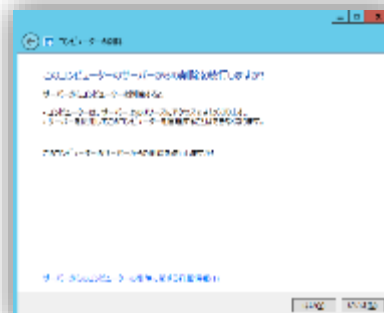


コンピューターの削除

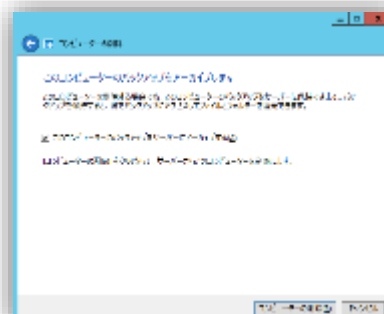
Windows Server Essentials エクスペリエンス で登録されたコンピューターを削除する方法です。削除するコンピューターでそれまでに取得したバックアップを保持することもできます。

1. 削除したいデバイスを選択し、各デバイスタスクの [コンピューターの削除] をクリックします。

[はい] をクリックします。



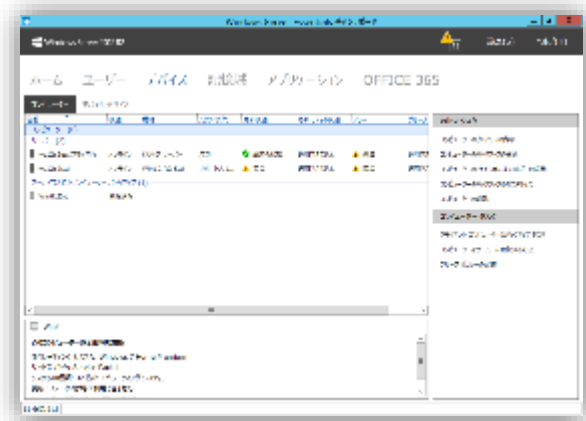
2. コンピューターバックアップをサーバー上にアーカイブするか選択します。[コンピューターの削除] をクリックします。



3. [閉じる] をクリックします。



- 削除したコンピューターバックアップのアーカイブをサーバー上に残した場合、コンピューターリストに[アーカイブされたコンピューターバックアップ]として表示されます。

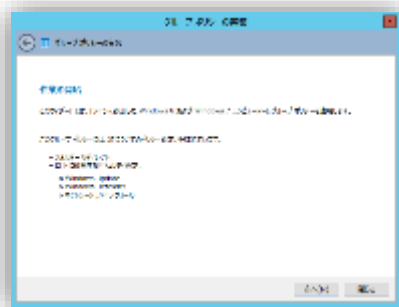


グループポリシーの実装

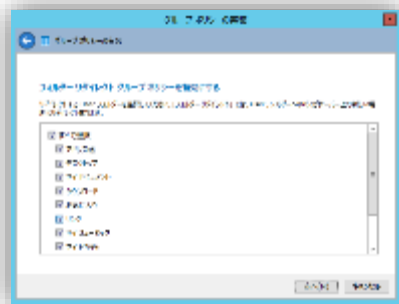
Windows Server Essentials エクスペリエンス に登録されたデバイスへセキュリティ強化などのグループポリシーを適用します。

- デバイス タスクの[グループポリシーの適用]をクリックします。

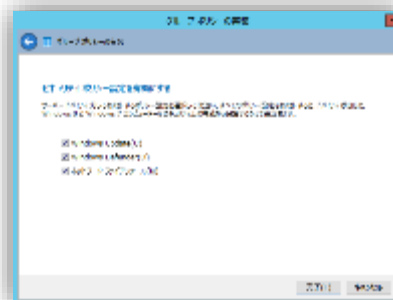
[次へ]をクリックします。



- フォルダーリダイレクトの対象となるフォルダーを選択し、[次へ]をクリックします。



3. 有効にするセキュリティポリシーを選択し、[次へ]をクリックします。

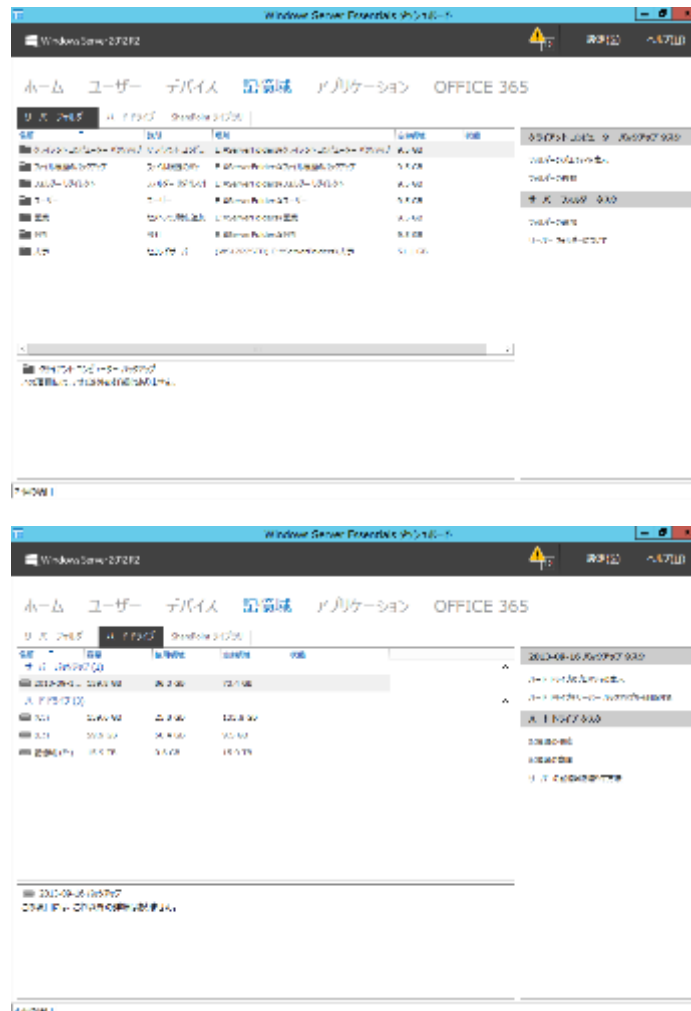


4. [閉じる]をクリックします。



Windows Server Essentials エクスペリエンス の記憶域の管理

ここでは、Windows Server Essentials エクスペリエンス の記憶域の管理について紹介します。記憶域の管理では、サーバーフォルダーやハードドライブの管理を行うことができます。サーバーフォルダーの追加、移動、削除などはダッシュボードの記憶域タブのサーバーフォルダー サブタブ（上図）で、ディスクの管理はハードドライブ サブタブ（下図）で管理します。

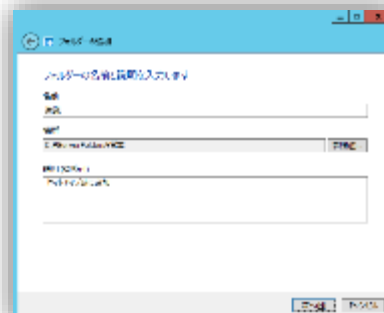


サーバーフォルダーの作成（Windows Server Essentials エクスペリエンスのサーバー）

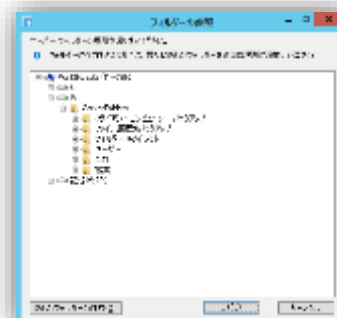
Windows Server Essentials エクスペリエンス のサーバーフォルダーの作成する方法です。サーバーフォルダーは、文書やピクチャー画像などをサーバーフォルダーに保管し、データの保護を行います。

1. サーバーフォルダー タスクの[フォルダーの追加]をクリックします。

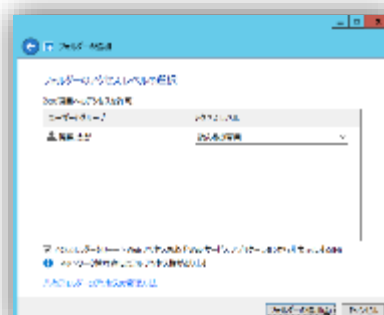
フォルダー名、フォルダーの場所（参照ボタンで選択可能）、説明を入力し、[次へ]をクリックします。



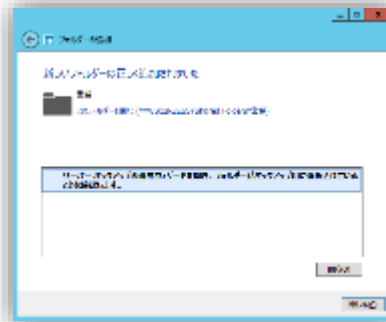
2. サーバーフォルダーを参照し、[OK]をクリックします。



3. 各ユーザーのアクセス権を設定し、[フォルダーの追加]をクリックします。



4. 作成したサーバーフォルダーがサーバーバックアップに含まれているか確認することができます。

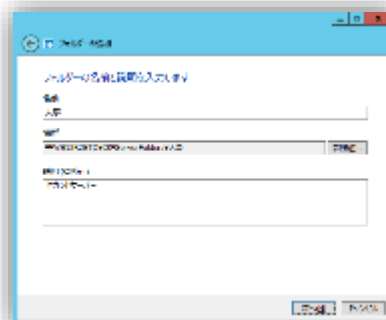


サーバーフォルダーの作成（他のサーバー）

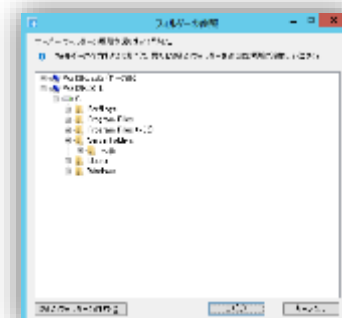
Windows Server Essentials エクスペリエンス のサーバーフォルダーを Windows Server Essentials エクスペリエンス のサーバー以外のサーバーに作成する方法です。ここで作成したサーバーフォルダーは Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップの範囲に含めることはできません。

1. サーバーフォルダー タスクの[フォルダーの追加]をクリックします。

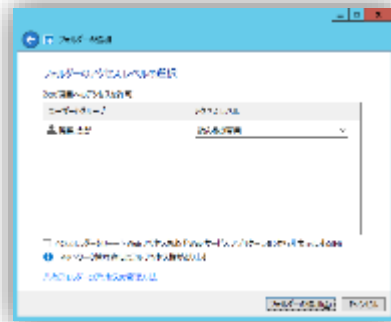
フォルダー名、フォルダーの場所（参照ボタンで選択可能）、説明を入力し、[次へ]をクリックします。



2. サーバーフォルダーを参照し、[OK]をクリックします。



3. 各ユーザーのアクセス権を設定し、[フォルダーの追加]をクリックします。



4. 他のサーバーへサーバーフォルダーが作成されます。

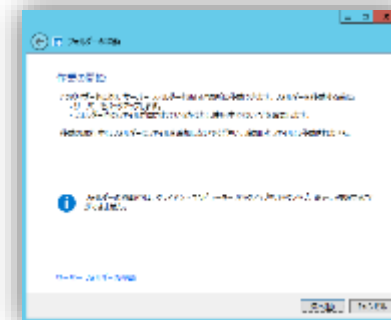


サーバーフォルダーの移動

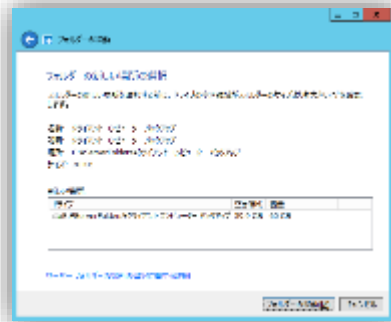
Windows Server Essentials エクスペリエンス のサーバーフォルダーを別のドライブへ移動する方法です。この機能により、空き容量が少なくなったディスクから空き容量に余裕があるディスクへ安全にデータを移動することができます。サーバーフォルダーの移動中には、コンピューターからそのサーバーフォルダーへアクセスすることはできません。サーバーフォルダー移動後は、サーバーバックアップの構成を変更する必要がある場合があります。

1. 移動したいサーバーフォルダーを選択し、各サーバーフォルダー タスクの[フォルダーの移動]をクリックします。

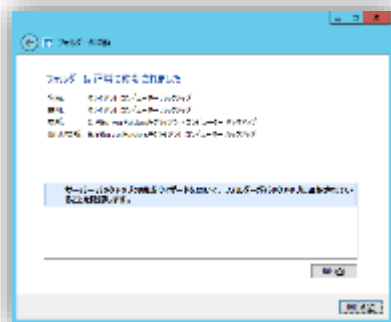
[次へ]をクリックします。



2. 移動先を選択し、[フォルダーの移動]をクリックします。



3. 移動したサーバーフォルダーがサーバーバックアップに含まれているか確認することができます。

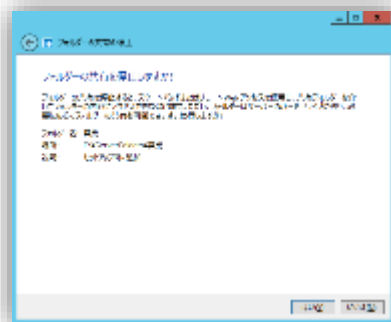


サーバーフォルダーの共有の停止

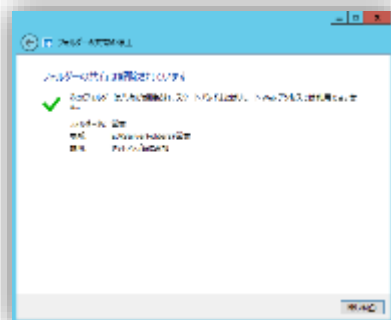
Windows Server Essentials エクスペリエンス のサーバーフォルダーを停止する方法です。この機能によりコンピューターからサーバーフォルダーへアクセスできなくなります。サーバー上のデータは削除されません。

1. 共有を停止したいサーバーフォルダーを選択し、各サーバーフォルダー タスクの[フォルダーの停止]をクリックします。なお、停止できるのは、管理者によって作成されたサーバーフォルダーだけです。

[はい]をクリックします。



2. [閉じる]をクリックします。

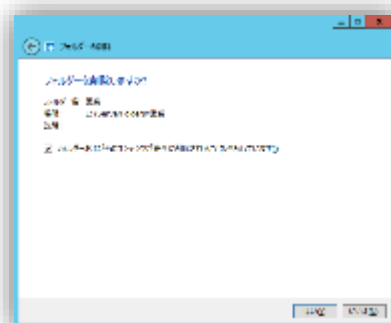


サーバーフォルダーの削除

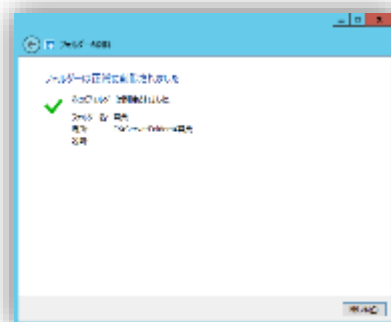
Windows Server Essentials エクスペリエンス のサーバーフォルダーを削除する方法です。この機能によりコンピューターからサーバーフォルダーへアクセスできなくなります。また、サーバー上のデータも削除されます。

1. 削除したいサーバーフォルダーを選択し、各サーバーフォルダー タスクの[フォルダーの削除]をクリックします。なお、削除できるのは、管理者によって作成されたサーバーフォルダーだけです。

[はい]をクリックします。



2. [閉じる]をクリックします。



ハードドライブの追加（データドライブ）

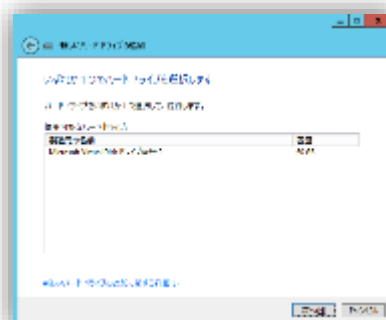
Windows Server Essentials エクスペリエンス のデータドライブを追加する方法です。データドライブの追加では、ハードディスクはフォーマットされ、データドライブとして利用できるように構成されます。

1. 新しいハードディスクが追加されると、正常性の監視に情報が表示されます。

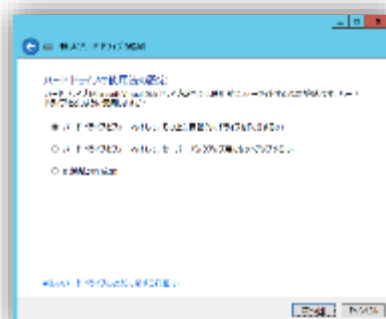
現在のアラートタスクの[この情報のトラブルシューティング]をクリックします。



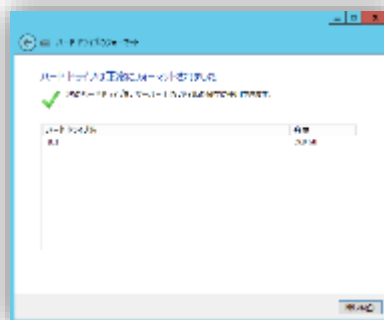
2. データドライブとして利用したいハードドライブを選択し、[次へ]をクリックします。



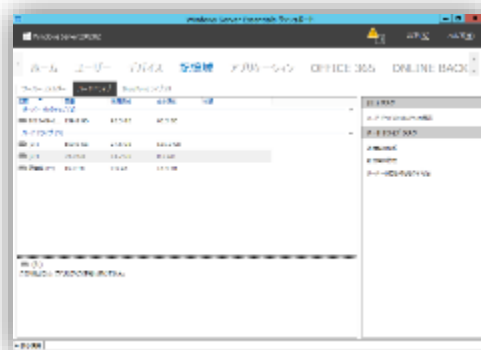
3. 既定の[ハードドライブをフォーマットして、その上に自動的にドライブを作成する]を選択し、[次へ]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。



5. 記憶域のハードドライブリストビューに新しいドライブが表示されます。

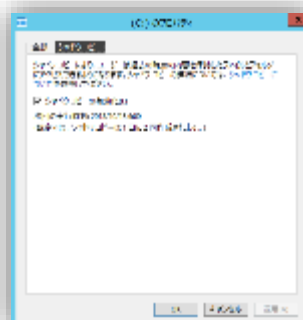
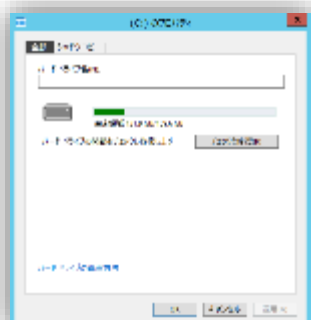


ハードドライブのプロパティ

Windows Server Essentials エクスペリエンス のハードドライブのプロパティについて紹介します。ハードドライブのプロパティでは、状態の表示だけでなく、不要なデータやアプリケーションを削除、ハードディスクの修復といったタスクも実行することができます。

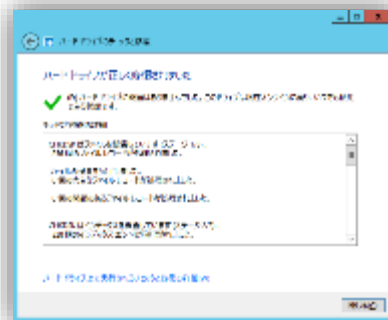
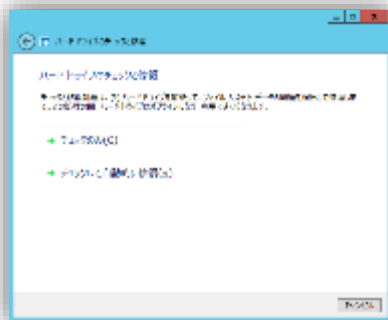
ステータス

ハードドライブの名前の変更、空き容量の確認、シャドーコピー機能の有効無効の設定をすることができます。



チェックと修復

チェックと修復ではハードドライブを解析してファイルシステムデータの問題を検出、修復をすることができます。ハードドライブ修復中は、ハードドライブにアクセスすることができなくなります。

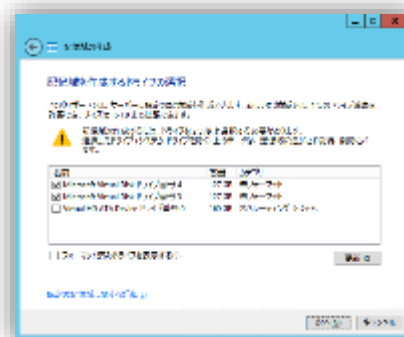


記憶域の作成

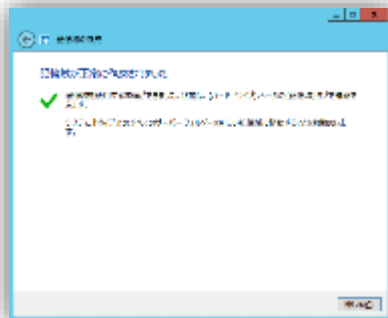
Windows Server Essentials エクスペリエンス で利用する記憶域を作成する方法です。

1. ハード ドライブ タスク の記憶域の作成をクリックします。

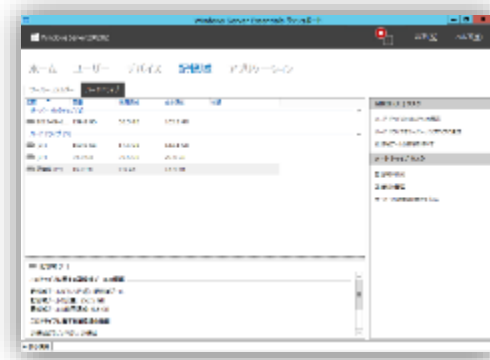
記憶域を作成するドライブを選択し、[次へ]をクリックします。



2. [閉じる]をクリックします。



3. 記憶域のハードドライブリストビューに新しいドライブとして記憶域が表示されます。

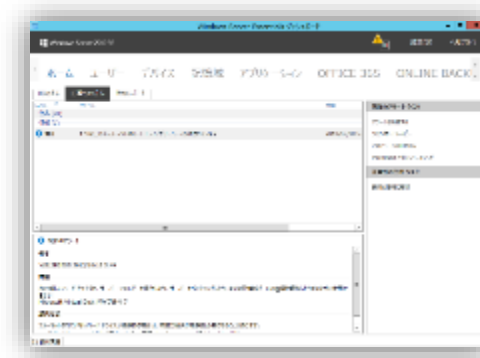


ハードドライブの追加（記憶域の容量を増やす）

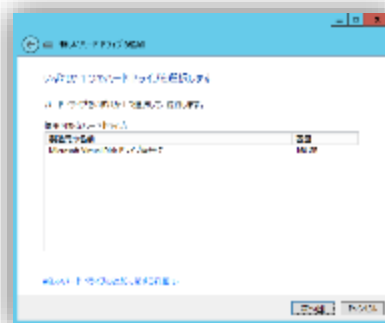
Windows Server Essentials エクスペリエンス に新しいハードドライブを追加し、記憶域の容量を増やす方法です。

1. 新しいハードディスクが追加されると、正常性の監視に情報が表示されます。

現在のアラートタスクの[この情報のトラブルシューティング]をクリックします。



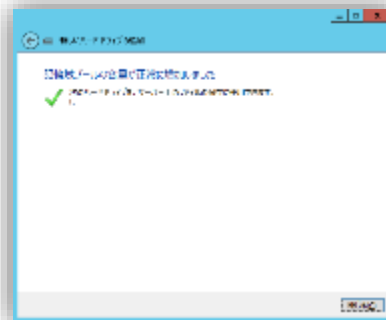
2. データドライブとして利用したいハードドライブを選択し、[次へ]をクリックします。



3. [このハードドライブを使用して記憶域プールの容量を増やす]を選択し、[次へ]をクリックします。

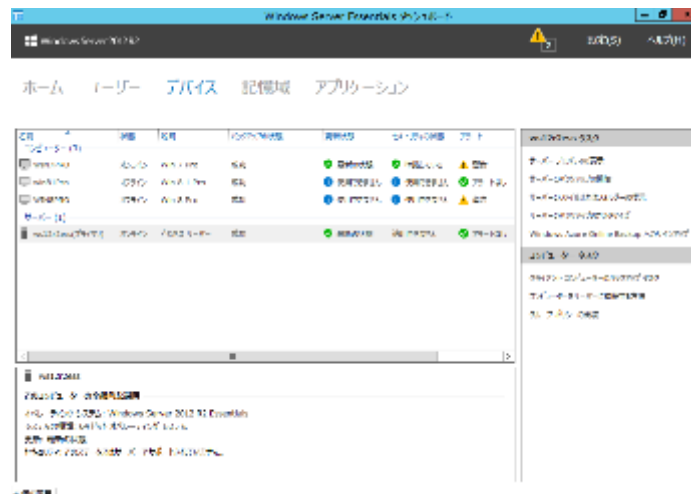


4. [閉じる]をクリックします。



Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップ

ここでは、Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップと復元について紹介します。バックアップでは、サーバー自身だけでなくコネクタアプリケーションがインストールされたネットワーク上のコンピューターのバックアップも取得することができます。復元では、ファイルやフォルダー単位の復元からディスク、コンピューターごとの復元まで多様な復元方法があります。バックアップと復元はデバイスタブで行います。

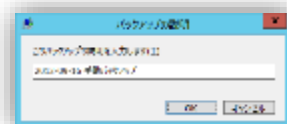


コンピューターのバックアップの取得

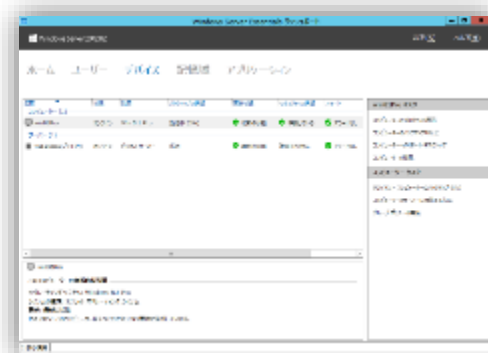
Windows Server Essentials エクスペリエンス のコンピューターのバックアップを取得する方法です。

1. バックアップするコンピューターを選択し、タスクにある[コンピューターのバックアップの開始]をクリックします。

バックアップのラベルを入力し、[OK]をクリックするとバックアップが開始されます。



2. デバイス リストビューのバックアップの状態が処理中となります。

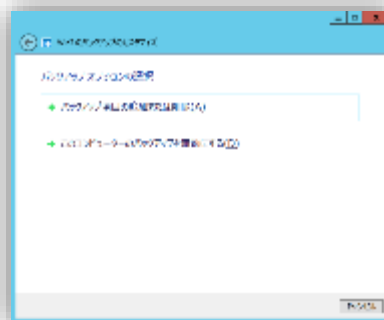


コンピューターのバックアップ項目の追加と削除

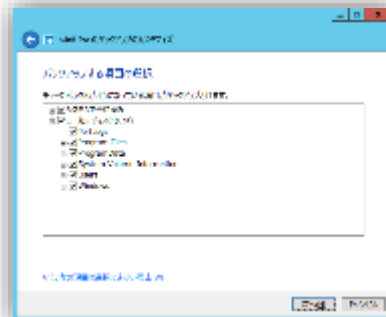
Windows Server Essentials エクスペリエンス のコンピューターのバックアップ項目の追加と削除する方法です。

1. 変更の対象となるコンピューターを選択し、タスクにある[コンピューターのバックアップのカスタマイズ]をクリックします。

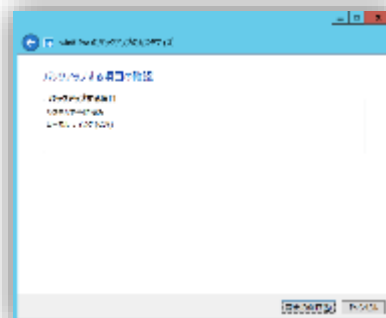
[バックアップ項目の追加または削除]をクリックします。



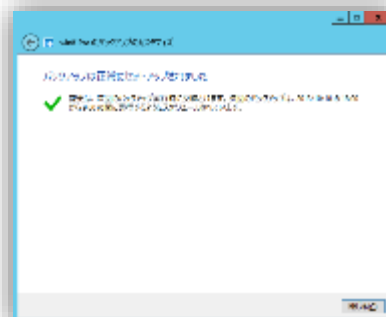
2. バックアップする項目を変更し、[次へ]をクリックします。



3. [変更の保存]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。

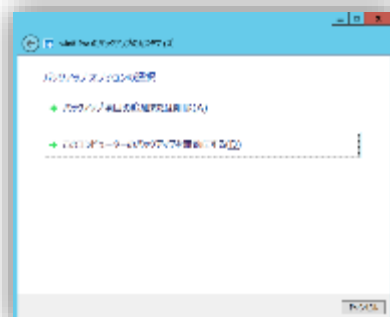


コンピューターのバックアップの無効

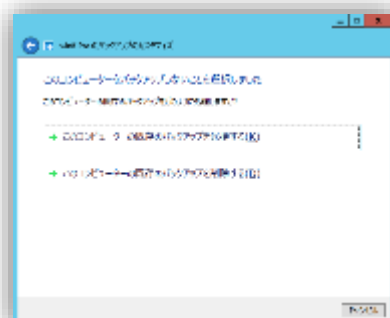
Windows Server Essentials エクスペリエンス のコンピューターのバックアップを無効にする方法です。すでに取得されたバックアップ ファイルを残すことも削除することもできます。

1. 変更の対象となるコンピューターを選択し、タスクにある[コンピューターのバックアップのカスタマイズ]をクリックします。

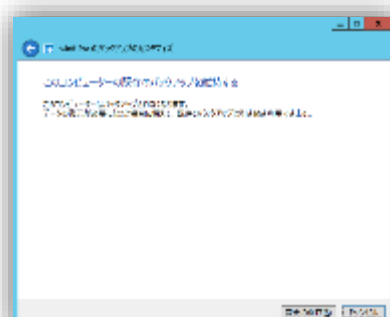
[このコンピューターのバックアップを無効にする]をクリックします。



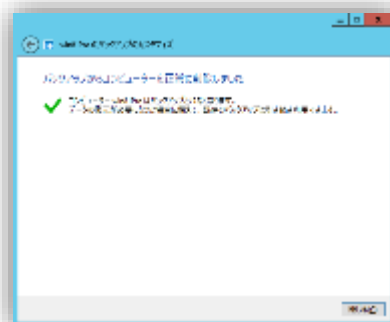
2. 既存のバックアップを保持もしくは削除のいずれかを選択します。



3. [変更の保存]をクリックします。



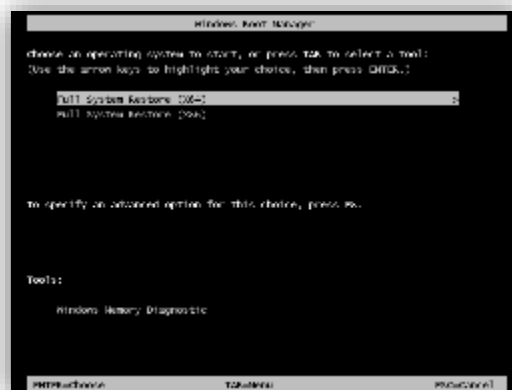
4. [閉じる]をクリックします。



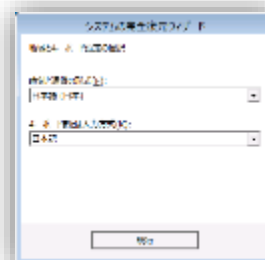
コンピューター全体の復元（ベアメタル回復）

Windows Server Essentials エクスペリエンス に保存されたバックアップを使ってコンピューターを完全に復元することができます。コンピューターを回復するには、回復キーが保存された USB メモリが必要です。

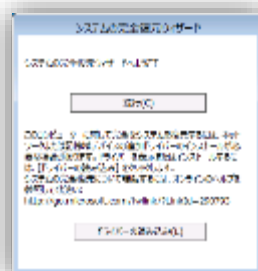
1. コンピューター回復キーを保存した USB から復元したいコンピューターを起動します。



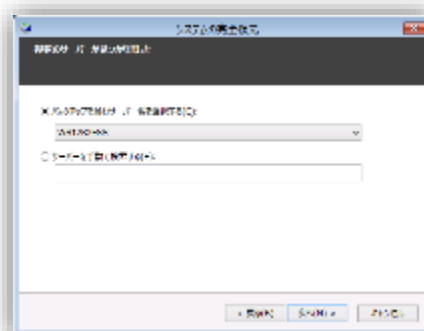
2. [続行]をクリックします。



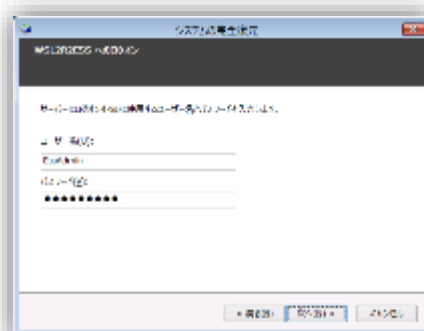
3. 必要に応じて、ドライバーを読み込むことができます。[続行]をします。



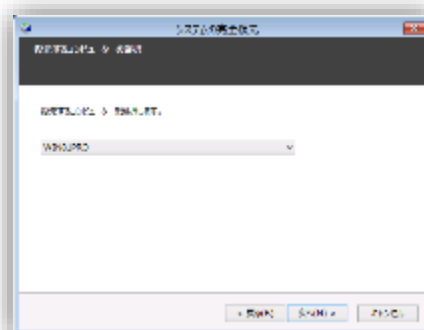
4. [次へ]をクリックします。



5. サーバーにログインするユーザー名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



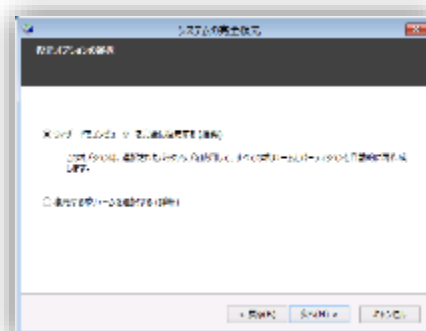
6. 復元するコンピューターを選択し、[次へ]をクリックします。



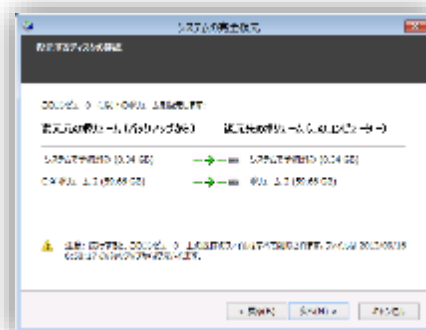
7. 復元するバックアップデータを選択し、[次へ]をクリックします。



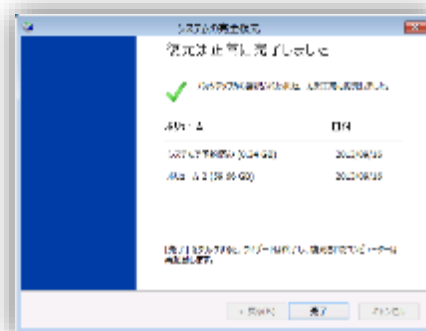
8. 推奨設定のまま、[次へ]をクリックします。



9. [次へ]をクリックすると復元が始まります。

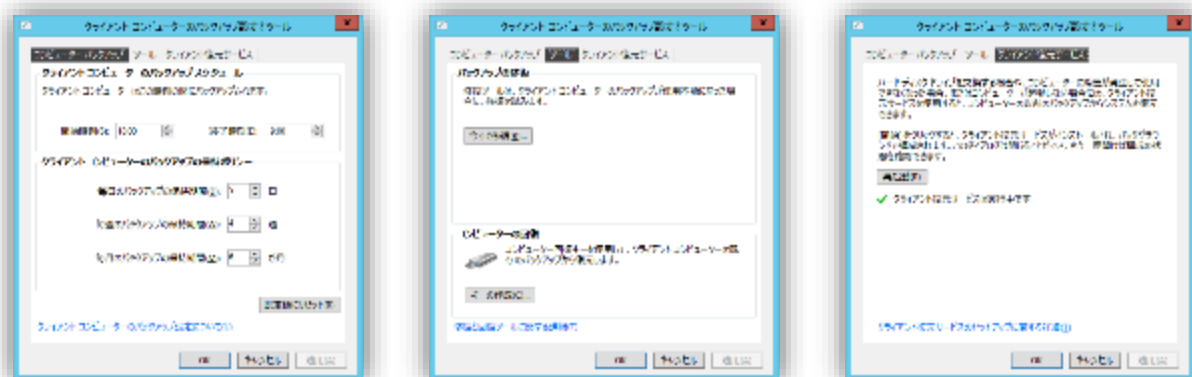


10. [完了]をクリックします。



コンピューターのバックアップとファイルの履歴の設定

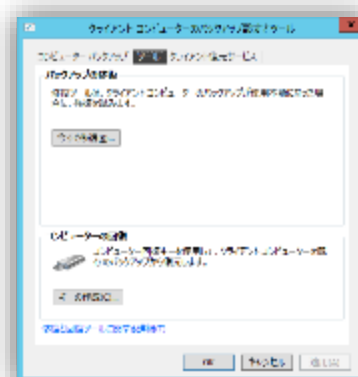
コンピューターのバックアップのスケジュール、バックアップデータの修復、コンピューターを復元の時に使用する復元キーの作成ができます。



バックアップ データベースの 修復

バックアップデータの修復を行います。

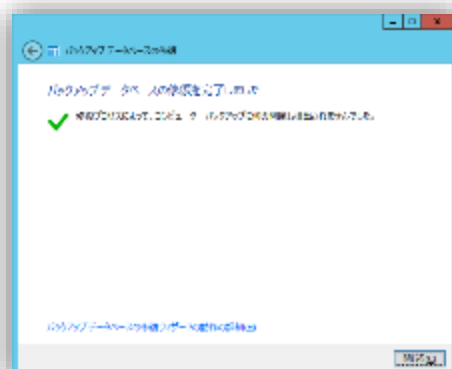
1. [今すぐ修復]をクリックします。



2. [次へ]をクリックします。



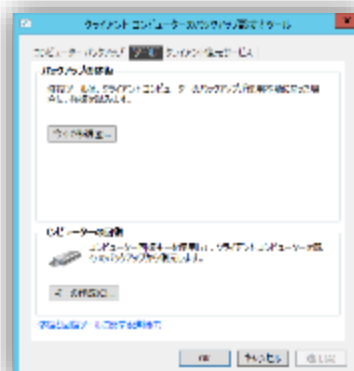
3. [閉じる]をクリックします。



コンピューターの回復キーの作成

コンピューターの回復に使用する回復キーを作成します。回復キーの作成には、USB メモリが必要です。また、回復キーを作成する前にクライアント復元サービスをセットアップしておく必要があります。

1. [キーの作成]をクリックします。



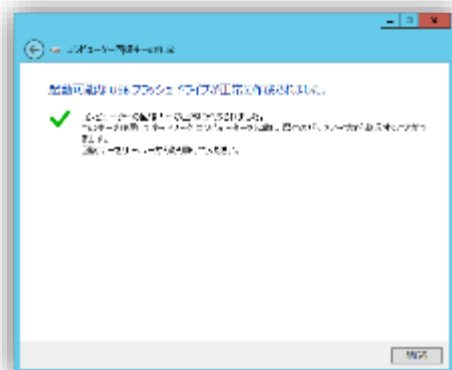
2. [次へ]をクリックします。



3. 回復キーを保存する USB フラッシュドライブを選択し、[次へ]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。



ハードドライブの追加（バックアップ ディスク）

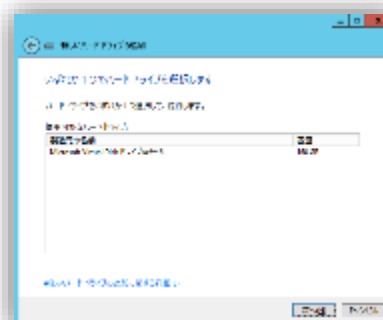
Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップ ディスクの追加する方法です。バックアップ ディスクの追加では、ハードディスクはフォーマットされ、バックアップ ディスクとして利用できるように設定します。

1. 新しいハードディスクが追加されると、正常性の監視に情報が表示されます。

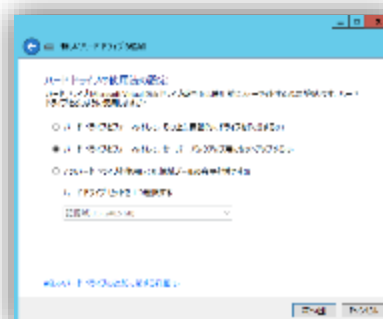
タスクの[ハードドライブのフォーマットおよび構成]をクリックします。



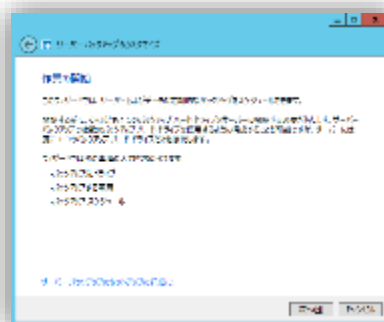
2. データドライブとして利用したいハードドライブを選択し、[次へ]をクリックします。



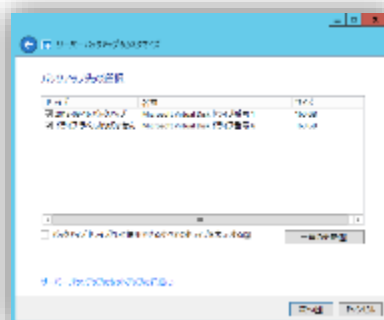
3. [ハードドライブをフォーマットして、サーバーバックアップ用にセットアップする]を選択し、[次へ]をクリックします。



4. [次へ]をクリックします。



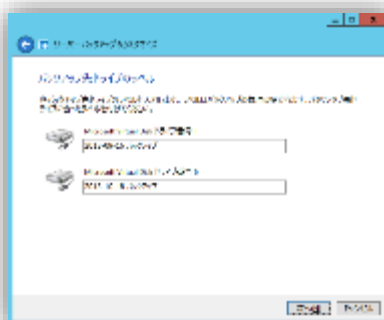
5. バックアップするディスクを選択し、[次へ]をクリックします。



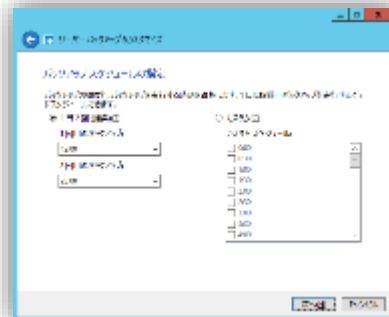
6. 選択されたディスクが再フォーマットされる警告が表示されます。



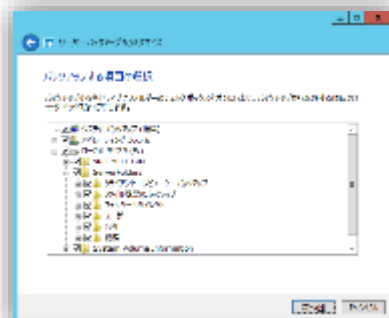
7. バックアップ先のドライブにつけるラベルを入力し、[次へ]をクリックします。



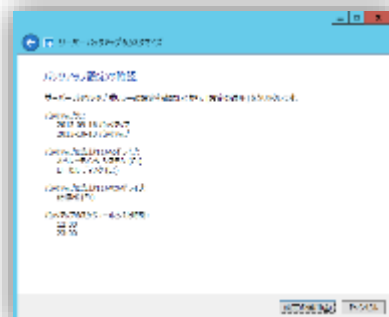
8. バックアップスケジュールを選択し、[次へ]をクリックします。



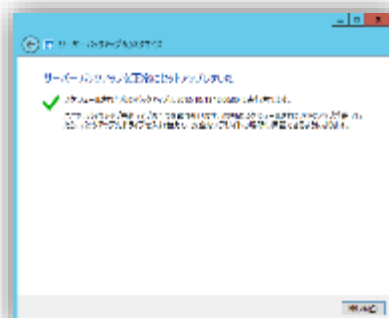
9. バックアップする項目を選択し、[次へ]をクリックします。



10. バックアップの設定項目一覧が表示されます。設定内容が正しければ、[設定の適用]をクリックします。修正が必要な場合は、左上の戻るボタンをクリックし、修正する項目のページに戻ります。



11. サーバーバックアップの設定が完了しました。[閉じる]をクリックします。

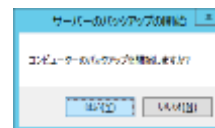


サーバーバックアップの取得

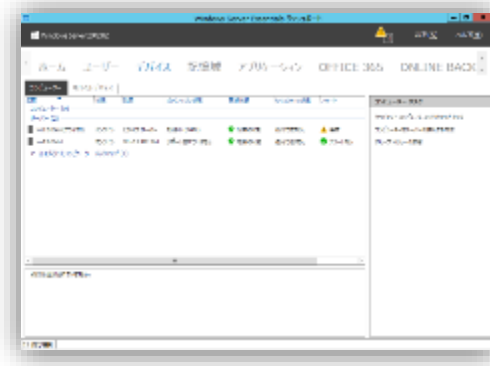
Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップを手動で取得する方法です。

1. ビジネスサーバーを選択し、個別タスクにある
[サーバーのバックアップの開始]をクリックします。

[はい]をクリックします。



2. デバイス リストビューのバックアップの状態が処理
中となります。



サーバーバックアップの設定の変更

Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップ設定を変更する方法です。サーバーフォルダーの作成や移動、データディスクを新たに追加した場合などにバックアップの設定を見直す必要があります。

1. ビジネスサーバーを選択し、個別タスクにある
[サーバーのバックアップのカスタマイズ]をクリック
します。

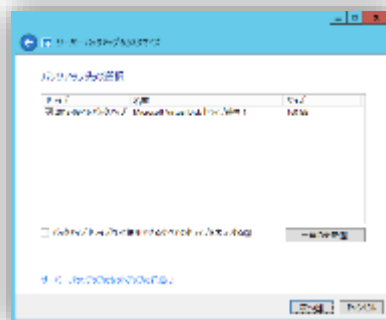
[次へ]をクリックします。



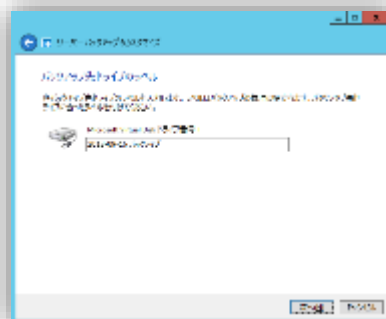
2. [サーバーバックアップ設定の変更]を選択します。



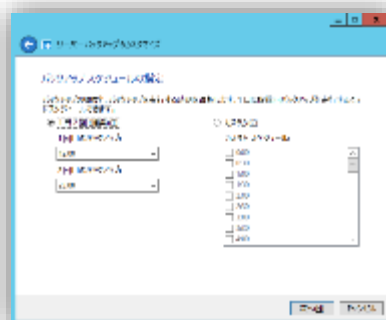
3. バックアップするディスクを選択し、[次へ]をクリックします。



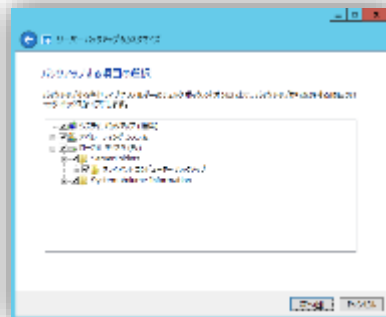
4. バックアップ先のドライブにつけるラベルを入力し、[次へ]をクリックします。



5. バックアップスケジュールを選択し、[次へ]をクリックします。



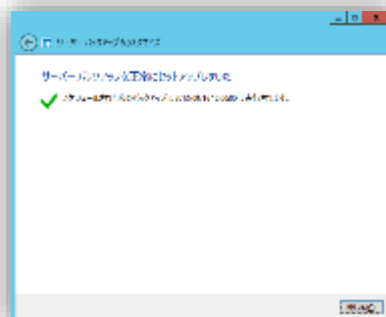
6. バックアップする項目を選択し、[次へ]をクリックします。



7. バックアップの設定項目一覧が表示されます。設定内容が正しければ、[設定の適用]をクリックします。修正が必要な場合は、左上の戻るボタンをクリックし、修正する項目のページに戻ります。



8. サーババックアップの設定が完了しました。[閉じる]をクリックします。



サーバーバックアップの無効

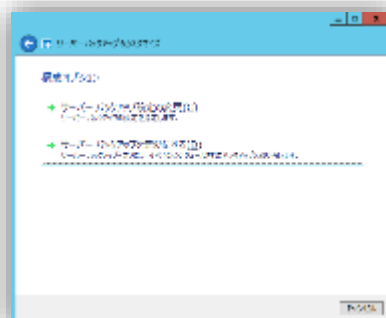
Windows Server Essentials エクスペリエンス のバックアップを無効にする方法です。バックアップを無効にした場合、今まで取得したバックアップファイルは、そのまま保持されます。

1. ビジネスサーバーを選択し、個別タスクにある
[サーバーのバックアップのカスタマイズ]をクリック
します。

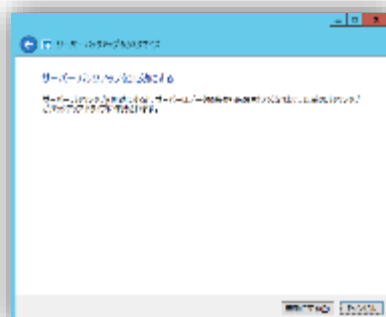
[次へ]をクリックします。



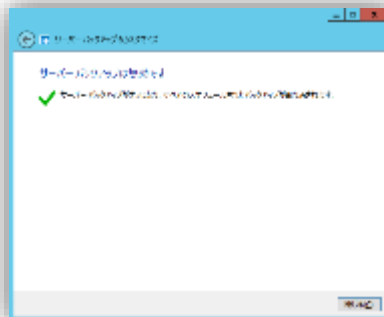
2. [サーバーバックアップを無効にする]を選択しま
す。



3. [無効にする]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。



サーバーの復元（ファイルとフォルダー）

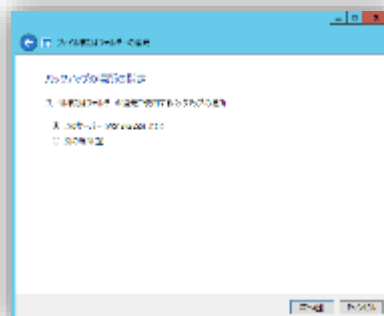
Windows Server Essentials エクスペリエンス をバックアップファイルからファイルやフォルダーを復元する方法です。復元は、ファイルやフォルダー単位だけでなく、ドライブ全体も復元することができます。また、復元場所は、元の場所と別の場所を選択することができます。

1. ビジネスサーバーを選択し、個別タスクにある [サーバーのファイルまたはフォルダーの復元] をクリックします。

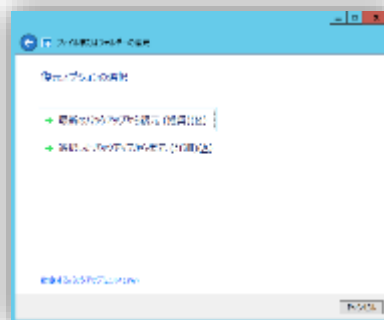
[次へ]をクリックします。



2. バックアップデータのある場所を選択し、[次へ]をクリックします。



3. [最新のバックアップから復元（推奨）]を選択します。



4. [ファイルまたはフォルダー]を選択します。



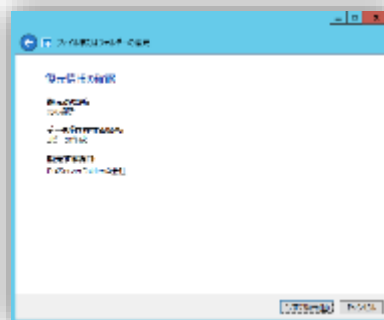
5. 復元するファイルまたはフォルダーを選択し、[次へ]をクリックします。



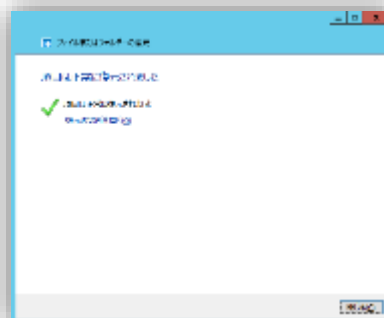
6. 復元する場所を選択します。今回は、元の場所を選択します。[次へ]をクリックします。



7. [今すぐ復元]をクリックすると復元が始まります。



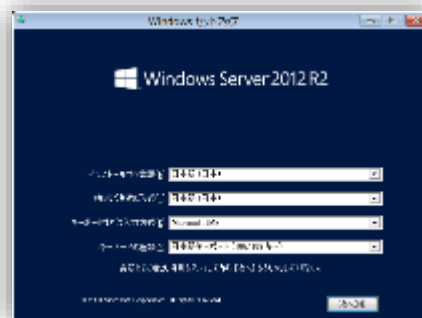
8. [閉じる]をクリックします。



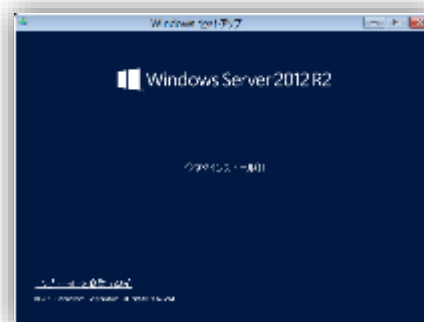
サーバー全体の復元（ベアメタル回復）

Windows Server Essentials エクスペリエンス をバックアップファイルからサーバーを完全回復する方法です。バックアップファイルは、ローカルに接続されたバックアップディスクだけでなくネットワーク上の共有ストレージにも対応しています。

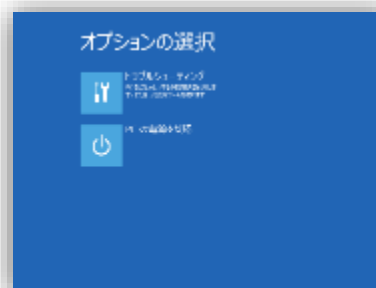
1. インストール DVD メディアからコンピューターを起動します。[次へ]をクリックします。



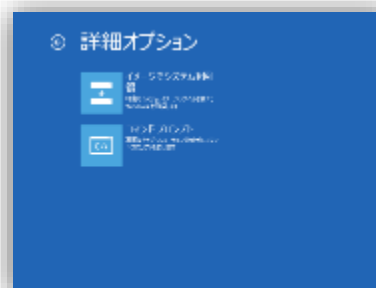
2. 左下の[コンピューターを修復する]をクリックします。



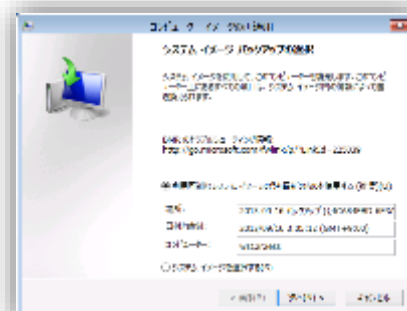
3. [トラブルシューティング]をクリックします。



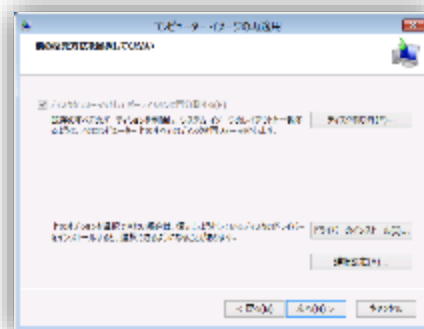
4. [イメージでシステムを回復]をクリックします。



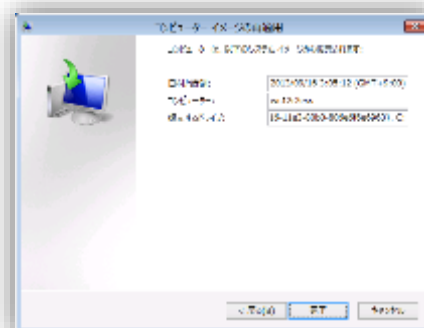
5. 復元に使用するバックアップデータを選択します。
ここでは、最新のバックアップデータを選択します。



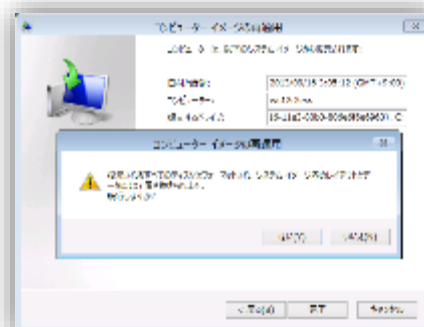
6. 復元方法を選択します。ここでは、既定のまま、[次へ]をクリックします。



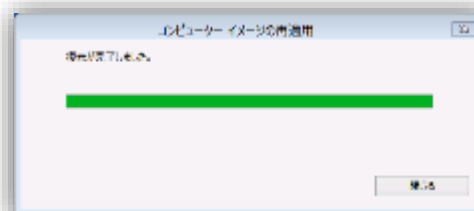
7. [完了]をクリックします。



8. 復元先のディスクがフォーマットされるダイアログボックスが表示されます。[はい]をクリックすると復元が始まります。



9. 復元が完了すると再起動され、復元された Windows Server Essentials エクスペリエンスが起動します。

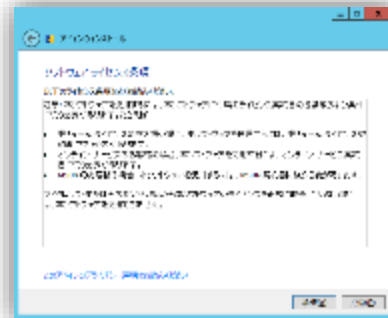


Windows Server Essentials エクスペリエンス のアプリケーション

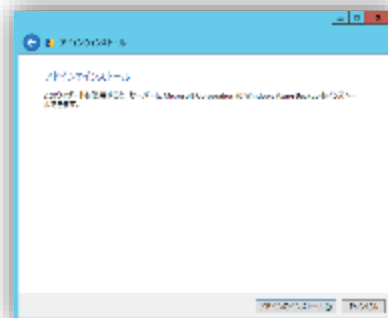
アドインのインストール

Windows Server Essentials エクスペリエンス の機能を拡張するアドインをインストール方法の紹介をします。

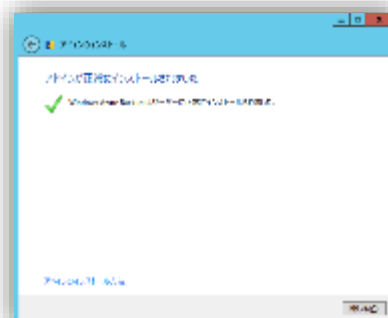
1. インストールしたいアドインを実行します。ソフトウェアライセンス条項を[承諾]します。



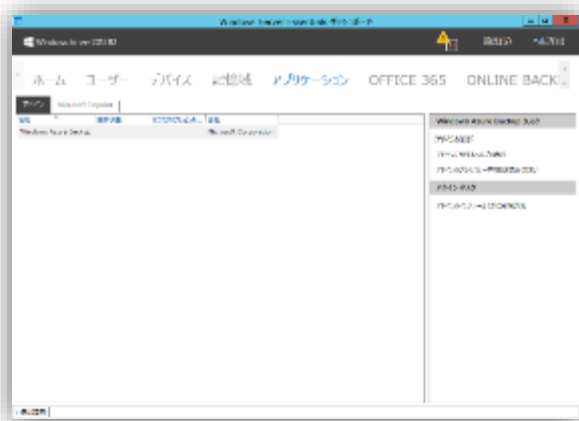
2. [アドインのインストール]をクリックします。



3. [閉じる]をクリックします。



4. アドインのインストールが完了しました。

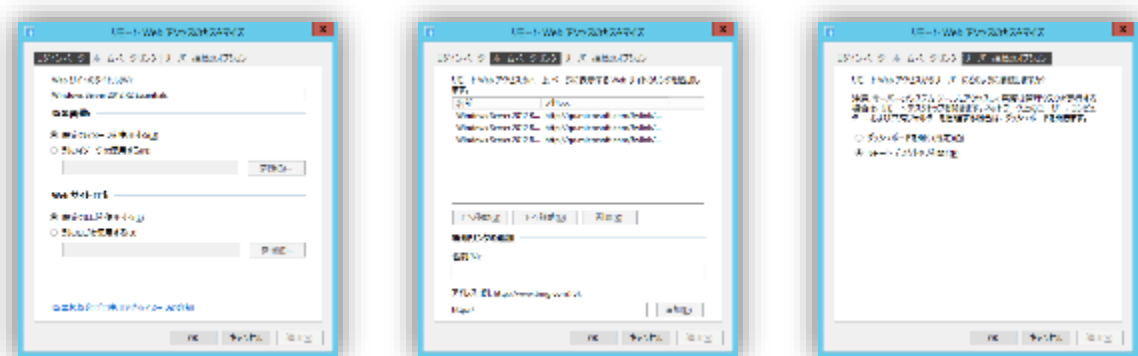


Windows Server Essentials エクスペリエンス のリモートアクセス (Anywhere Access)

リモート Web アクセスのカスタマイズ

Windows Server Essentials エクスペリエンス のリモート Web アクセスは、カスタマイズすることができます。カスタマイズできる項目は以下のとおりです。

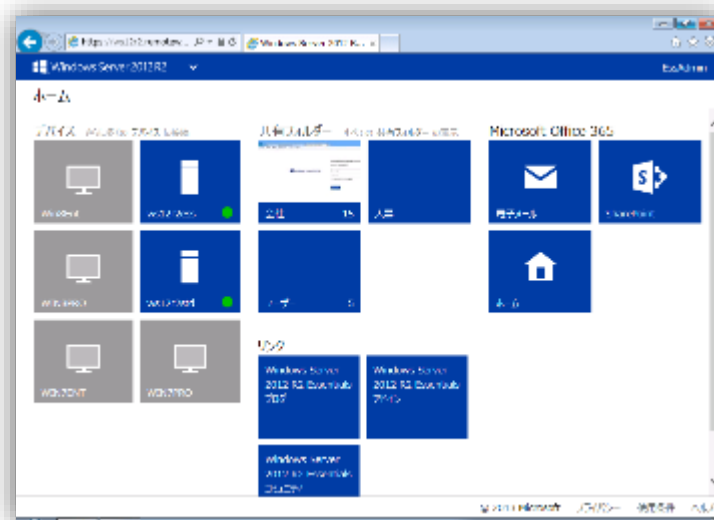
- サイトのタイトル、イメージ、ロゴ
- リンク
- サーバーの起動方法（ダッシュボード、リモートデスクトップ）



リモート Web アクセス サイト

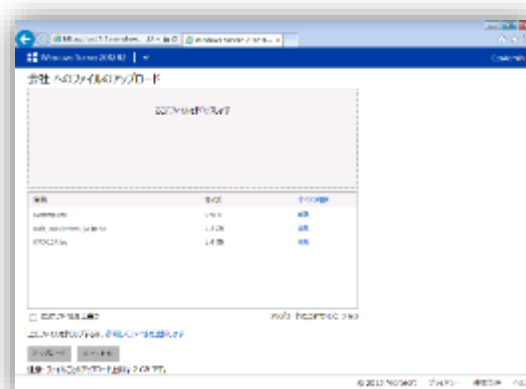
ホーム

リモート Web アクセスのメニューにあたる画面です。ここからコンピューター、共有フォルダー、リンクにアクセスできます。電子メールサービスに Office 365 を選択している場合は、Office 365 の Web サイトへアクセスするリンクの Web パーツが追加されます。



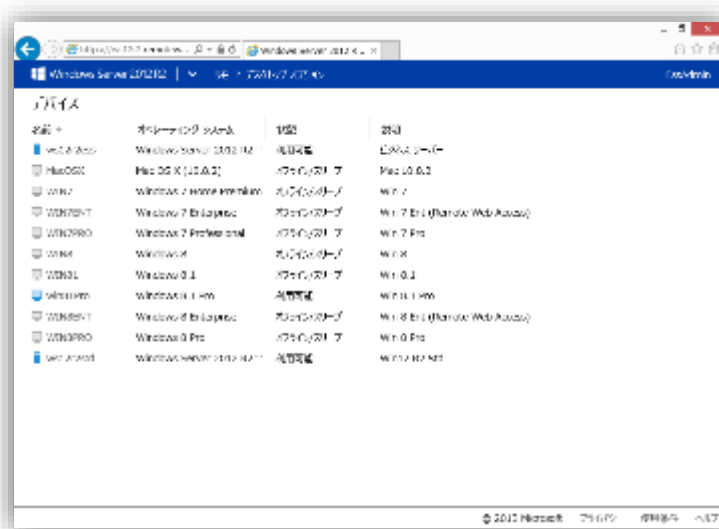
共有フォルダー

Web ブラウザーを使ってサーバーフォルダーへアクセスすることができます。サーバーフォルダー内のデータの閲覧、ダウンロード、アップロードができます。データの閲覧では、一覧表示とアイコン表示が選択できます。複数ファイルのダウンロードでは、ZIP 圧縮による一括ダウンロードができます。ファイルのアップロードでは、ドラッグアンドドロップができるようになっています。



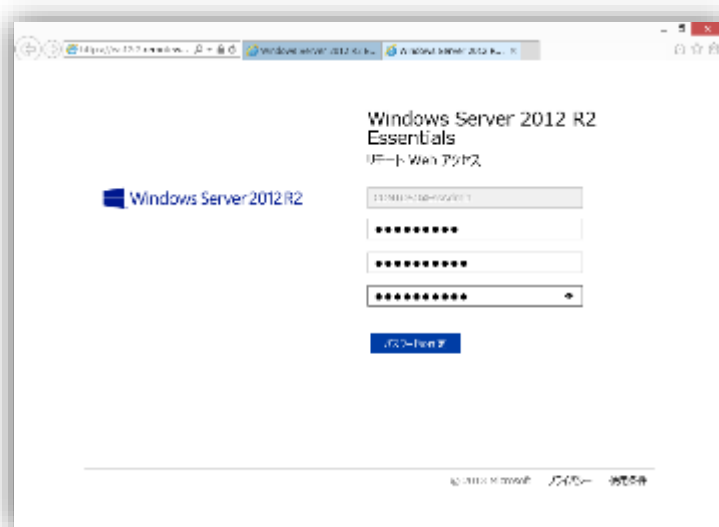
デバイス

Windows Server Essentials エクスペリエンス で管理しているデバイスの一覧が表示されます。ビジネス用エディションでは、リモートデスクトップによりアクセスすることができます。リモートデスクトップオプションでは、リモートコンピュータとローカルコンピュータ間のプリンターやドライブなどのリソースの共有方法を選択することができます。



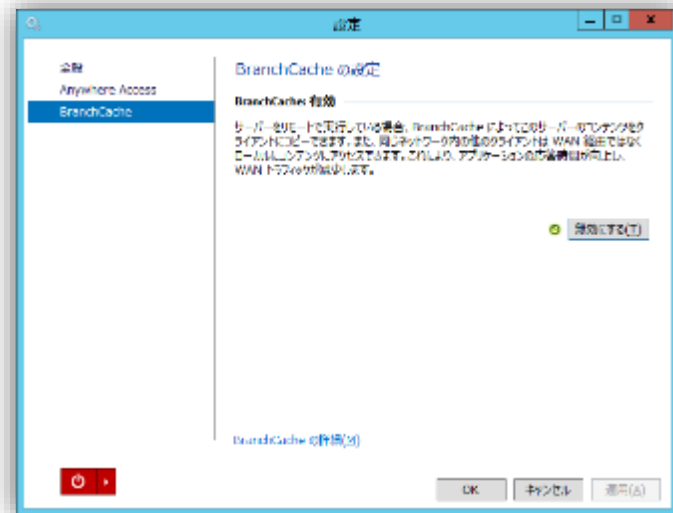
パスワード変更

ホーム右上のログオンユーザーをクリックするとユーザーアカウントのパスワードの変更ができます。



BranchCache

BranchCache の機能を有効にすると、リモートからサーバーにアクセスした場合にサーバーのコンテンツをクライアントにキャッシュすることができるようになります。

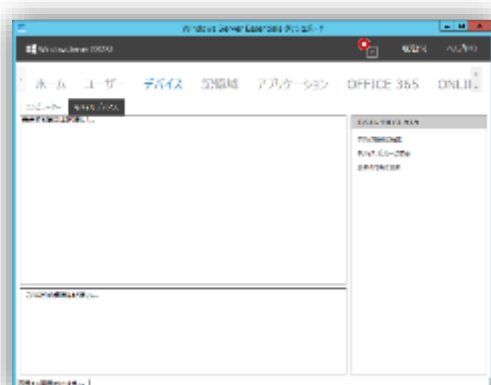
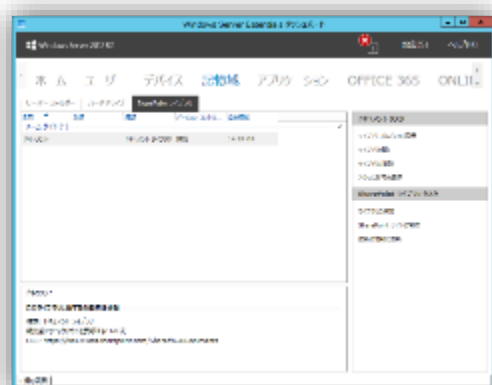
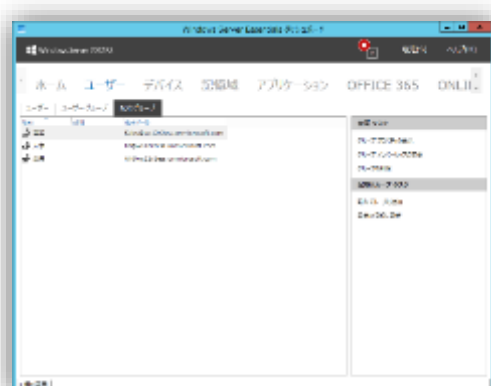
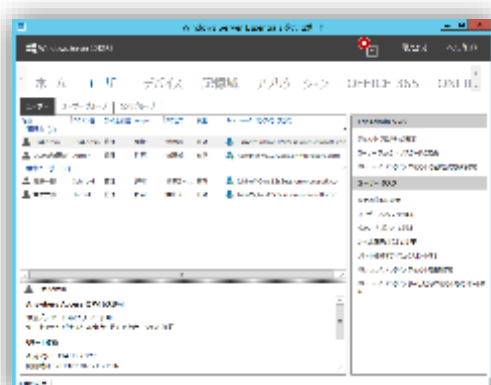


クラウドサービスの統合

Microsoft Office 365 の統合

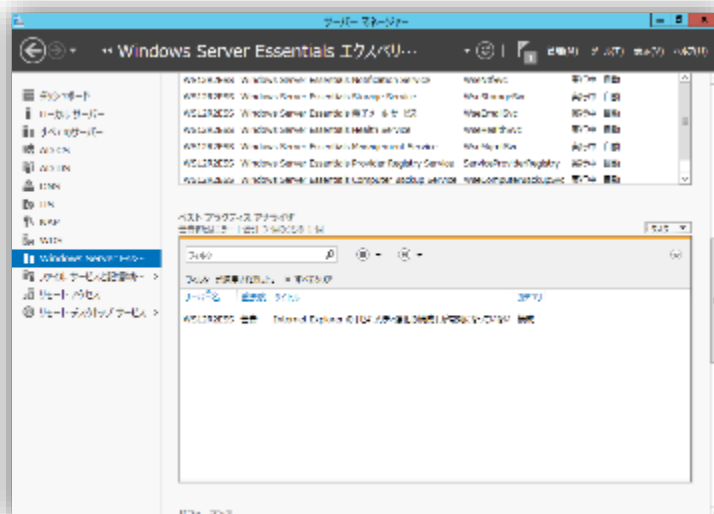
Microsoft Office 365 の統合をするとダッシュボードに新しいタブが追加され Office365 の管理状況が把握できるようになります。また、以下の項目の管理が行えるようになります。この機能は、サーバーが最初のドメインコントローラーの場合のみ利用できます。

- Office365 の契約状況とライセンスの割り当て
- ユーザーアカウントとメールアドレスの連携
- グループとセキュリティグループの連携
- 配布グループ
- SharePoint ライブラリ
- モバイルデバイス



ベストプラクティス アナライザー

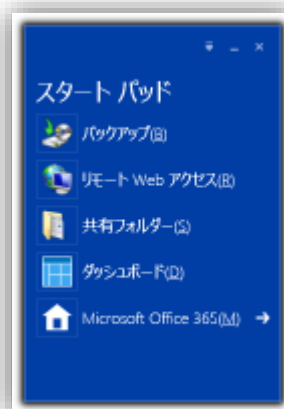
ベスト プラクティス アナライザーによる Windows Server Essentials エクスペリエンス の 正常性の確認結果を確認することができます。また、正常性の確認を手動で実行することもできます。ベスト プラクティス アナライザー は、タスクマネージャーにある「ベスト プラクティス アナライザー」をクリックすることで、実行されます。



Windows Server Essentials スタートパッド

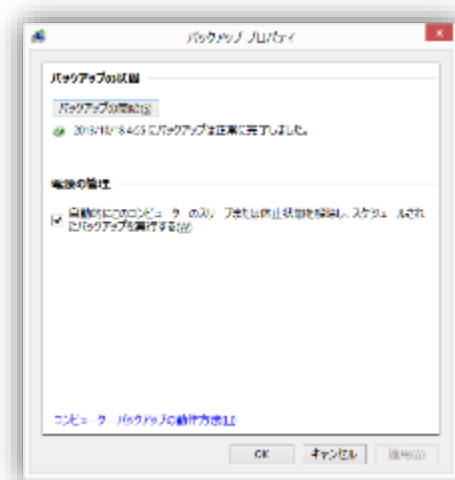
Windows Server Essentials スタート パッドは、コネクタアプリケーションと一緒にインストールされるアプリケーションです。スタート パッドにより、認証されたユーザーはコンピューターのバックアップ、共有ファイルおよびリモート アクセス Web サイトなどの Windows Server Essentials エクスペリエンス の主要機能にアクセスできます。

スタートパッドはコンピューターの正常性に関するリアルタイム情報と通知を表示します。管理者は、コンピューターがネットワークに接続していない場合でも、スタートパッドを使用してサーバーのダッシュボードにアクセスすることができます。



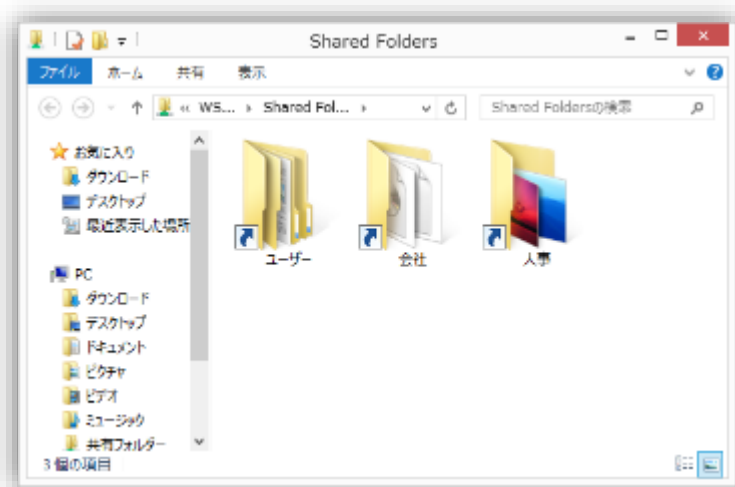
バックアップ

スタートパッドからコンピューターのバックアップの状況について確認できます。また、コンピューターのバックアップを手動で実行することもできます。



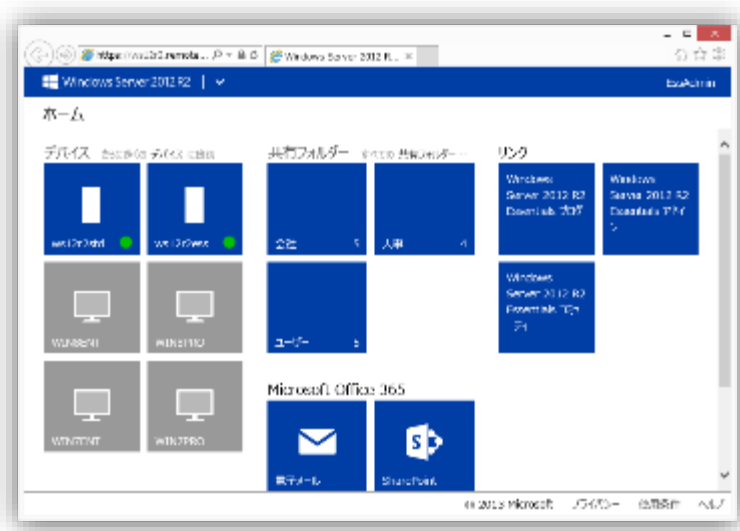
サーバーフォルダー

スタートパッドからエクスプローラーを起動して、サーバーフォルダーへアクセスすることができます。



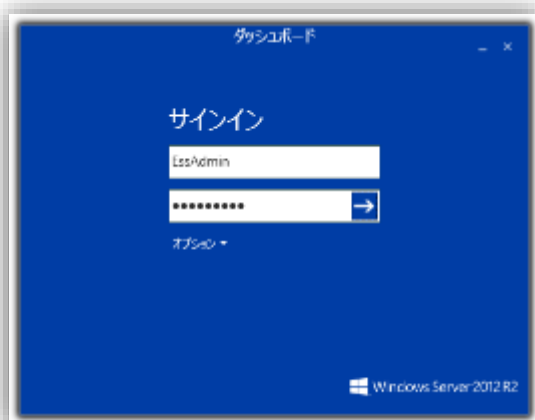
リモート Web アクセス

スタートパッドからインターネットブラウザを起動して、Windows Server Essentials エクスペリエンス のリモート Web アクセス サイトへアクセスします。



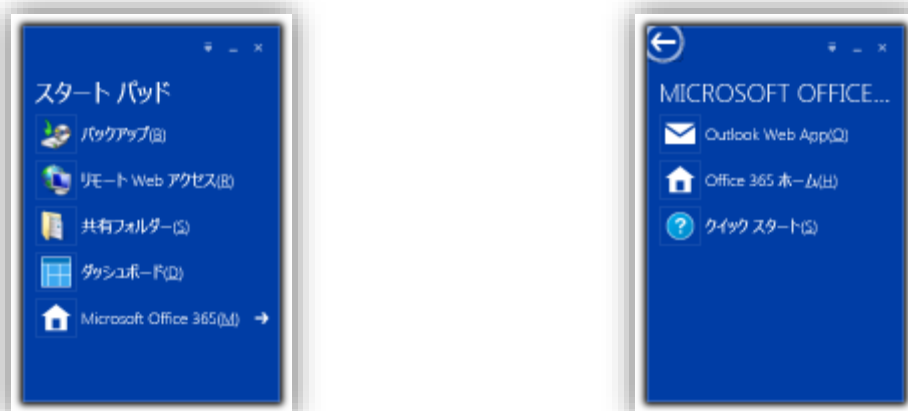
ダッシュボード

管理者は、スタートパッドからダッシュボードを起動します。ダッシュボードを起動するオプションを選択することができます。



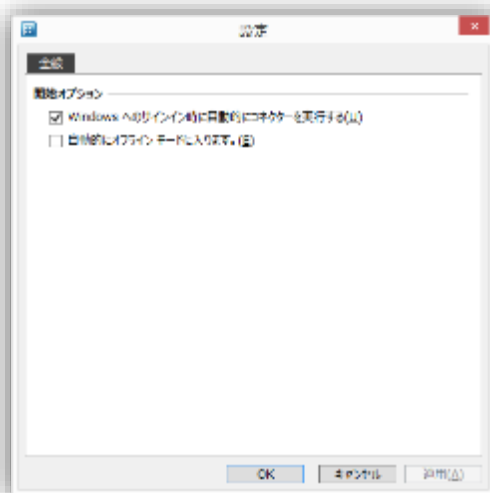
Office 365

電子メールサービスに Office 365 を選択した場合、スタートパッドからも Office 365 の各サイトへアクセスできるようにスタートパッド が変更されます。



スタートパッドの設定

スタートパッドの開始オプション、表示されるアラートの範囲の設定をすることができます。



リソース

Windows Server Essentials エクスペリエンス、Windows Server Essentials エクスペリエンスの情報

Windows Server Essentials エクスペリエンス の最新技術情報

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sbs/jj159331>

Windows Server Essentials エクスペリエンス の製品 Web サイト

<http://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/products/windows-server-2012-r2-essentials/default.aspx>

Microsoft MVP (Windows Server for Small and Medium Business) のブログ

<http://wsbs.wordpress.com>